明治四十一年三月第十回專修科修了生　（十三人）　（いろは順）

亘理　繁（千葉）	椿　繁藏（千葉）	井上　達子（廣島）	小池　政藏（長野）
渡邊次郎（東京）	成松　靜雄（熊本）	柳澤　秀吉（富山）	齋藤　糸平（群馬）
神藏良一（新潟）	中曾根類造（群馬）	前田　弘（高知）	水谷　恭治（岐阜）
高野親雄（山形）			

明治四十二年三月第十一回專修科修了生　（十　人）　（いろは順）

飯海慎二（愛知）	加藤輝光（埼玉）	内記茂市（滋賀）	胡　以魯（清國）
八田清信（京都）	高橋鈴彦（愛知）	安武元十郎（福岡）	近藤只藏（東京）
林　祐次郎（愛知）	角田孝次郎（新潟）		

明治四十三年三月第十二回專修科修了生　（十二人）　（いろは順）

板倉東海男（東京）	坪田熊雄（福井）	富士德治郎（奈良）	鹽澤直重（山梨）
神谷衝平（東京）	織田仙之助（東京）	荒井桂三（東京）	篠原豬太郎（山梨）
高山錄太郎（東京）	松田重則（奈良）	水田恭太郎（東京）	下山田正雄（秋田）

明治四十四年三月第十三回專修科修了生　（十四人）　（成績順）

周家彥（清國）	福田勝治（埼玉）	佐々木啓介（福井）	小坂榮次（新潟）

上原博閑（山梨）	小林正藏（東京）	安部藤治（大分）	馬場時藏（埼玉）
竹島茂郎（三重）	香掛斧次郎（長野）	安彥啓次郎（北海道）	三好喜和（富山）
山本孝太郎（和歌山）	宇津忠萬（東京）		

明治四十五年三月第十四回專修科修了生　（十八人）　（成績順）

村上瑚驤雄（岡山）	松橋達生（青森）	島岡浩一郎（群馬）	田邊定吉（北海道）
原田親雄（北海道）	永山武美（北海道）	氏家孝次郎（宮城）	郡岡良臣（東京）
水谷英保（東京）	西岡定太郎（高知）	伊藤清一（愛知）	庄司又三郎（宮城）
石堂　貞（鹿兒島）	山田平七（京都）	前澤清助（長野）	池田睦平（新潟）
渡邊義男（山梨）	村田辰三（靜岡）		

大正二年三月第十五回專修科修了生　（十二人）　（成績順）

森　忠藏（東京）	武田外希往（石川）	松本照吉（高知）	鹽田與吉（群馬）
小寺　昌（京都）	濱田　章（埼玉）	小島德太郎（東京）	西本直民（東京）
石川　鼎（北海道）	山田嘉一（愛知）	曾我杢祐（岐阜）	溝淵泰次（東京）

大正三年三月第十六回專修科修了生　（十七人）　（成績順）

谷喜一郎（東京）	橫田千秋（兵庫）	大村清一（岡山）	砂山角野（新潟）

進藤千之助（兵庫）
白井龜吉（千葉）
大塚小郎（山形）
林　嘉保（長野）
小林來三（山口）
三條商太郎（東京）
鹿野　澄（鳥取）
鹿兒島　茂（福岡）
岩田文吉（京都）
岩本民德（鳥取）
相川直吉（群馬）
小島仁作（大分）
細野角太（群馬）

大正四年三月第十七回專修科修了生（十七人）（成績順）

西村　稠（島根）
猪俣津南雄（新潟）
增田　透（東京）
北澤種一（長野）
山田實平（靜岡）
下村宏次郎（佐賀）
井芹繼志（熊本）
齋藤　修（岡山）
谷田澤隆甫（靜岡）
松井壽次（愛知）
加藤光三（東京）
古內熊太郎（宮城）
川村久治郎（福井）
桑田福太郎（廣島）
柴田孝一（東京）
角田清彥（熊本）
居合鉅一郎（長野）

大正五年三月第十八回專修科修了生（十五人）（成績順）

甲斐直喜（東京）
鈴木重春（東京）
柳島錢一（愛知）
村上信三（大阪）
東室英夫（東京）
鈴木習之（千葉）
武田清三（大阪）
納　五平（兵庫）
御園生嘉二（山口）
松井佳一（山口）
黑柳謙吉（岐阜）
升內　豐（千葉）
畑馬治郎（東京）
熊谷　武（兵庫）
鮫島近二（鹿兒島）

大正六年三月第十九回專修科修了生（十五人）（成績順）

山本鹿太郎（神奈川）
丸毛信勝（大分）
秋葉　隆（千葉）
西池正顯（福井）
關　文圭（長野）
石川重吉（愛知）
湯淺次三郎（富山）
岩崎　憲（北海道）
寺田正中（茨城）
齋藤保次（千葉）
中山德治（福島）
岡田彌一郎（東京）
金子從次（東京）
眞宮幸之助（京都）
河野嘉六（廣島）

大正七年三月第二十回專修科修了生（十人）（成績順）

池端　榮（靜岡）
伊藤宗一郎（長野）
澁谷十郎（新潟）
阿部德三郎（北海道）
中原壽一郎（長野）
松岡益雄（熊本）
酒井光義（東京）
岡中周市（山口）
林　藤三郎（滋賀）
荒木榮次郎（廣島）

大正八年三月第二十一回專修科修了生（十八人）（成績順）

岡村梧彌太（東京）
大槻　喬（兵庫）
大澤忠光（東京）
武田正雄（岡山）
加藤述之（東京）
石丸源次郎（佐賀）
岡村喜代策（埼玉）
宮本寅平（福岡）
山本憲太郎（靜岡）
岩月定次（愛知）
長尾昌平（香川）
長谷川得太郎（愛知）
濱口末喜（大阪）
松隈吉郎（佐賀）
大津千丈（宮城）
黃　祐日（朝鮮）
長野小伊三郎（岐阜）
西澤信三（長野）

大正九年三月第二十二回專修科修了生（十五人）（ABC順）

足木十郎（愛知）
原田雄一（新潟）
磯部節次（山口）
岩間綠郎（青森）

加藤聽郎（三重）　直江光次（新潟）　實田通元（東京）　內沼武雄（福島）
小林商治（北海道）　鬼釜繁（熊本）　谷口市太郎（福岡）　渡邊虎太（岡山）
中野宗治（長野）　坂井俊三郎（長野）　立田義夫（東京）

大正十年三月第二十三回專修科修了者（二十一名）（ABC順）

阿部眞（福島）　三宅當時（東京）　小野竹次（長野）　戶田哲次郎（鳥取）
相澤與吉（神奈川）　中村武（千葉）　大倉武一（大阪）　坪田幸之（福井）
古屋諦道（東京）　西室貴義（山梨）　押田武夫（新潟）　山城誠止（宮城）
石黑誠一（東京）　荻原太郎（長野）　鹽澤誠（宮城）　桑田隆一（和歌山）
金子源一郎（東京）　小城末喜（大分）　竹內甲子二（靜岡）　吉岡友雄（長崎）
岸谷貞治郎（大阪）

大正十一年三月第二十四回專修科修了者（十三名）（ABC順）

赤崎茂信（香川）　笠倉英之助（廣島）　申文休（朝鮮）　高下和義（神奈川）
秋山直太郎（東京）　布川二郎（東京）　庄司好彰（山形）　牛山充（長野）
井上宗助（東京）　柴田周吉（福岡）　高橋正彥（廣島）　山下武雄（群馬）
石井增太郎（神奈川）

大正十二年三月第二十五回專修科修了者（十六名）（ABC順）

鯀　清（靜岡）　古澤源刀（東京）　松岡憲壽（鳥取）　高橋柳太（長野）
鹿澤忠治（山梨）　本莊精一（山梨）　西山鷹道（長野）　梅本豐吉（東京）
竹馬長三（東京）　川原田幸（岩手）　野間貞規（廣島）　若林鶴三郎（神奈川）
藤林次郎（青森）　黑澤清（茨城）　長田綱彥（兵庫）　渡邊多郎（岡山）

大正十三年三月第二十六回專修科修了者（十七名）（ABC順）

長谷川忠平（山梨）　菊池喜久太郎（東京）　小川雅次（山口）　白木萬里（岐阜）
星野豐秋（三重）　森敬之（兵庫）　大幸喜三郎（福島）　谷口忠（大分）
池田鎭男（東京）　森口和夫（三重）　酒井又夫（東京）　富田熊雄（福岡）
今澤武人（大分）　中山佐太郎（茨城）　關敎吾（長野）　矢浪幸一（富山）
金子寅四郎（東京）

大正十四年三月第二十七回專修科修了者（二十五名）（ABC順）

新井鹿之助（埼玉）　長谷川新三（東京）　前田元四郎（青森）
赤井知洗（奈良）　簸手喜平（東京）　松本久夫（佐賀）
青木庄太郎（群馬）　堀口五郎（岡山）　松下金雄（愛知）
土井竹治（兵庫）　今泉幾三郎（神奈川）　大澤彰三（島根）
長谷川一郎（青森）　石見進（福井）　小川安朗（長野）

齋藤　榮	（德島）	副島民雄	（佐賀）
齋藤良雄	（宮城）		

大正十五年三月第二十八回專修科修了者　（十三名）

（A B C順）

新井正治	（長野）	伊藤安二	（山形）
船橋　通	（神奈川）	金井征三郎	（東京）
船田　哲	（栃木）	木下　勇	（東京）
市川繁彌	（長野）		

昭和二年三月第二十九回專修科修了者　（三十名）

（A B C順）

江森盛久	（神奈川）	金原莊之助	（靜岡）
古川　清	（長崎）	小林正之	（長野）
肥土常吉	（東京）	小暮藤三	（埼玉）
伊東　明	（東京）	丸茂武雄	（山梨）
城　實	（東京）	增田菊松	（廣島）
加川滿篤	（東京）	松田悟清	（山形）
梶　茂芳	（青森）	松島正義	（富山）
川端男勇	（東京）	三羽忠廣	（富山）
横田安二	（愛知）	横山周次	（德島）
宮司眞澄	（山口）	小島不二雄	（新潟）
中村喜久夫	（三重）	奥西平三	（大阪）
中曾根正平	（長野）	柴山賜郎	（茨城）

昭和三年三月第三十回專修科修了者　（七名）

（A B C順）

青山證三	（廣島）	森　清	（大分）
美若明治	（岡山）	村上宗雄	（愛媛）
緒方猪一	（熊本）	山川喜代	（福井）
坂口勇造	（石川）		

昭和四年三月第三十一回專修科修了者　（十三名）

（A B C順）

藤原剛士	（岡山）	川庄順一	（福岡）
塚　功	（岐阜）	小泉龍雄	（北海道）
保坂信證	（新潟）	小谷美一	（大阪）
金子丑之助	（埼玉）		
佐藤誠一	（埼玉）	薄根正男	（栃木）
島田定明	（埼玉）	磯村　豐	（東京）
杉山　登	（靜岡）	中島　清	（茨城）

昭和五年三月第三十二回專修科修了者　（二十二名）

（A B C順）

千ヶ崎宣男	（茨城）	岩上金三郎	（栃木）
福島　晉	（長野）	廣川盈幸	（愛媛）
福島義平	（長野）	勝田千利	（東京）
平沼　良	（神奈川）	松村義重	（奈良）
磯田善作	（埼玉）	宮澤勝次郎	（長野）
伊藤孝一	（千葉）	森田龍市	（佐賀）
永田修二	（福岡）	柞原貞夫	（廣島）
中野　敏	（千葉）	櫻井久也	（長野）
西川甚太	（長崎）	佐々木元勝	（東京）
野々山利致	（愛知）	上野寶藏	（鹿兒島）
大坪實蔣	（鹿兒島）	山田直基	（佐賀）

昭和六年三月第三十三回專修科修了者（十七名）（ABC順）

淵野　光	（大分）	丸山重雄	（長野）	鷹野一雄	（靜岡）
簇手利義	（東京）	松岡優	（東京）	上村三男	（熊本）
久本忠一郎	（宮城）	松山礒郎	（兵庫）	山本寛	（愛知）
勝俣四郎	（千葉）	水口章	（靜岡）	山根巖	（島根）
小和瀨豐作	（群馬）				

昭和七年三月第三十四回專修科修了者（二十二名）（ABC順）

赤羽根貞雄	（東京）	村上蛟一	（東京）	奥富茂	（埼玉）
鴛朝太郎	（鹿兒島）	村上昇一郎	（北海道）	齋藤淨元	（東京）
吳文中	（臺灣）	中村源太郎	（東京）	島村羊一郎	（高知）
伊藤肇	（山梨）	野村一義	（青森）	鈴木登	（三重）
增田彌太郎	（茨城）	荻島四雄	（東京）	田口英彥	（岐阜）
三好麟之助	（兵庫）	沖田英雄	（東京）	高橋類治	（山形）
				津田龍二郎	（北海道）
				上原久	（廣島）
				若原正武	（北海道）
				山村亨吉	（東京）

昭和八年三月第三十五回專修科修了者（十六名）（ABC順）

赤穗津正是	（秋田）	橋本秀一	（石川）	樋口光則	（山梨）
川口猛	（山口）	武藤二郎	（秋田）	志村一雄	（山梨）
牧野勳儉	（山形）	尾原信彥	（島根）	宿澤正德	（山梨）
宮內二郎	（千葉）	力村晃太郎	（埼玉）	上山重濟	（東京）
				和保貞郎	（三重）
				渡邊綱男	（東京）
				横田清義	（富山）
				河端恒	（三重）

露語學科（大正八年九月露語部ト、昭和二年四月露語ト改稱）

明治三十二年七月第一回別科修了生　（二人）　（いろは順）

田中與五郎（大阪）　深井才治（新潟）

明治三十三年七月第二回別科修了生　（三人）　（いろは順）

岡部重一郎（東京）　松尾長之助（佐賀）　佐伯迅二郎（和歌山）

明治三十四年七月第三回別科修了生　（二人）　（いろは順）

長野豐彥（大分）　酒井恒矢（山形）

明治三十五年七月第四回別科修了生　（五人）　（いろは順）

稻澤珍三郎（宮崎）　久保田兵一（北海道）　軍地五郎（茨城）　木下蕃（福井）

大倉勳夫（山形）

明治三十六年七月第五回別科修了生　（八人）　（いろは順）

市川謙三（東京）　奥野幸吉（兵庫）　村上常郎（宮城）　千沖漢（清國）

鳥居博（福島）　竹內彌惣次（三重）　村井英一郎（岐阜）　松平庄九郎（東京）

明治三十七年七月第六回別科修了生　（六人）　（いろは順）

原田三平（山口）　中川正雄（兵庫）　藤井十四三（山口）　三宅福馬（高知）

岡田貞作（新潟）　村山丑松（新潟）

明治三十八年七月第七回專修科（別科改稱）修了生　（六人）　（いろは順）

根津鹿之助（千葉）　中瀨覺次郎（富山）　山德貫之輔（東京）　問瀨越彌（北海道）

成瀨正義（香川）　大友義勝（東京）

明治三十九年七月第八回專修科修了生　（一人）

細野正文（新潟）

明治四十年三月第九回專修科修了生　（七人）　（いろは順）

石橋則誼（福岡）　高橋忠一（石川）　上野信孝（東京）　疋田盛一（東京）

金森輝夫（岐阜）　竹內嘉兵衞（東京）　駒田彌四郎（三重）

明治四十一年三月第十回專修科修了生　（六人）　（いろは順）

劉用靜（清國）　山科久（栃木）　松信泰之輔（茨城）

健和田專太郎（神奈川）　松井英一（宮城）　宮崎友次郎（東京）

明治四十二年三月第十一回專修科修了生（三　人）（いろは順）

山本鬨太郎（靜岡）―荒木賴吉（東京）―皆川太郎（山口）

明治四十三年三月第十二回專修科修了生（五　人）（いろは順）

石鑓守人（岩手）―中野力太郎（東京）―中島平（福井）―佐治喜一（福島）

加藤盛三（三重）

明治四十四年三月第十三回專修科修了生（四　人）（成績順）

大森鐵三（愛知）―竹島馨一（山口）―前田儀作（東京）―遠藤宗一（三重）

明治四十五年三月第十四回專修科修了生（三　人）（成績順）

岡見潤吉（京都）―瀧文宣（香川）―樫澤銀造（宮城）

大正二年三月第十五回專修科修了生（三　人）（成績順）

尾瀨敬止（京都）―黑石信一（東京）―長谷部照伍（神奈川）

大正四年三月第十六回專修科修了生（二　人）（成績順）

關餘作（北海道）―神田榮（山口）

大正五年三月第十七回專修科修了生（四　人）（成績順）

桑木崇明（東京）―玉木時哉（新潟）―外山高一（東京）―渡邊勝太郎（東京）

大正六年三月第十八回專修科修了生（六　人）（成績順）

原久一郎（新潟）―中村良之助（東京）―恒川助次郎（愛知）―渡邊秀一（東京）

岡部直三郎（廣島）―中村正明（埼玉）

大正七年三月第十九回專修科修了生（十二人）（成績順）

佐々木嘉吉（愛媛）―大高義尾（東京）―田代己代次（東京）―鈴木光三郎（福島）

須田正繼（山梨）―茂呂憲吉（東京）―香川正雄（岡山）―檜垣春三（廣島）

白石實三（群馬）―岡上守道（高知）―松本欽一郎（佐賀）―横本榮一（岡山）

大正八年三月第二十回專修科修了生（八　人）（成績順）

田淵誠一（東京）―園部正一（岐阜）―田島彰（愛知）―川井田尙（鹿兒島）

茂木剛三郎（東京）―關矢恕一（新潟）―大塚清（兵庫）―星榮三郎（宮城）

大正九年三月第二十一回專修科修了生（六　人）（ABC順）

秋本宗市（山口）―清岡博見（岩手）―永井誠也（京都）―山縣竹志（東京）

飯田武英（東京）―草野成一（福岡）

大正十年三月第二十二回專修科修了者（九名）（ABC順）

藤田純三（三重）　中村禧（山梨）　白石信親（熊本）　高橋好三（埼玉）
布施政信（東京）　大友忠五郎（岩手）　鈴木孝敬（東京）　高桑榮祐（富山）
峰須賀寛雄（德島）

大正十一年三月第二十三回專修科修了者（十二名）（ABC順）

藤井三吉（群馬）　岩本嘉一（青森）　名越修（東京）　武山十一夫（東京）
福岡正生（北海道）　北島守（靜岡）　佐野英（山梨）　植松茂雄（大阪）
袋一平（東京）　松元國治（鹿兒島）　澤宣治（東京）　山崎嘉兵衛（東京）

大正十二年三月第二十四回專修科修了者（八名）（ABC順）

古屋諦道（東京）　伊藤賢一（東京）　小島長一郎（東京）　中山貫一（鹿兒島）
原進四郎（山梨）　加唐鎌吉（東京）　三浦日出雄（青森）　中澤茂男（山口）

大正十三年三月第二十五回專修科修了者（十七名）（ABC順）

阿部英明（東京）　伊藤清忠（大阪）　松永正康（福島）　奥田貞樹（愛知）
朝野通（鹿兒島）　小林實（福島）　宗澤茂三郎（北海道）　稅所基彥（鹿兒島）
石田武平治（靜岡）　久々湊與一郎（北海道）　布川學而（新潟）　佐山慶次郎（栃木）
申文休（朝鮮）　牛山充（長野）　山田虎一（山口）　吉田秀一（東京）
高橋正彥（廣島）

大正十四年三月第二十六回專修科修了者（十一名）（ABC順）

青山猛（愛知）　間庭秀文（東京）　大關隆文（新潟）　山口省三（新潟）
畠中象男（廣島）　大石勝郎（東京）　島村米藏（埼玉）　吉山修（熊本）
堀井源助（東京）　大西久雄（東京）　島內志剛（高知）

大正十五年三月第二十七回專修科修了者（九名）（ABC順）

出村良一（愛知）　小林次男（東京）　松本道比古（三重）　岡野他家夫（富山）
池田博（北海道）　日下部武雄（岡山）　西川勇（福井）　大野已之助（東京）
北島隆二（大阪）

昭和二年三月第二十八回專修科修了者（十七名）（ABC順）

江口貞雄（新潟）　春日雅雄（長野）　村山三郎（山形）　小野久圓（東京）
江澤養之助（東京）　河崎正三（東京）　中村義德（神奈川）　大澤清三（青森）
蜂谷吉之助（岩手）　菰田得二（千葉）　成田梅吉（東京）　澤田斌夫（秋田）
檜山茂（茨城）　松澤正人（長野）　大村三太郎（青森）　清水謙一郎（福岡）
板橋啓行（東京）

昭和三年三月第二十九回專修科修了者（十七名）（ABC順）

荒井豐吉	（東京）	井川武秀	（東京）	松井　潔	（東京）
朴大錦	（朝鮮）	伊東元廣	（北海道）	村木幸猛	（東京）
原　渉	（福岡）	金　龜	（朝鮮）	武藤友直	（岡山）
廣島德四郎	（神奈川）	松原之三	（東京）	大西繁市	（德島）
堀關夫	（山形）				

昭和四年三月第三十回專修科修了者（八名）（ABC順）

本庄修一	（島根）	小林正雄	（群馬）	大野幹一	（新潟）
石若治男	（大阪）	中川久造	（東京）	鈴木彌太郎	（山形）

昭和五年三月第三十一回專修科修了者（八名）（ABC順）

伊藤義三	（山形）	越田正吉	（北海道）	田幸博	（長野）
上谷一雄	（東京）	宮武佳辰	（香川）	澁澤與一	（新潟）

昭和六年三月第三十二回專修科修了者（十七名）（ABC順）

相澤要	（山梨）	千葉金司	（青森）	成大勳	（朝鮮）
淺羽克郎	（東京）	上森政二	（富山）	馬上義太郎	（東京）
小野勝氏	（青森）	佐多美佐雄	（鹿兒島）	山本憲藏	（滋賀）
築取滿營	（新潟）				

昭和七年三月第三十三回專修科修了者（三名）（ABC順）

井上照丸	（山口）	小松芳喬	（東京）	鈴木宗一郎	（東京）

昭和八年三月第三十三回專修科修了者（九名）（ABC順）

江澤　衡	（北海道）	西村　庚	（岡山）	大關暢二	（新潟）
遠藤　中	（靜岡）	大塚博人	（福岡）	鈴木正義	（千葉）
川久保　活	（東京）				

鬼春人	（福岡）	齋藤恭平	（新潟）	千足高保	（東京）
折山利一	（長野）	澤田米次郎	（高知）	鈴木博	（東京）
齋藤勇	（東京）				

津田重雄	（茨城）	山內武敏	（愛知）	高島賞	（岡山）
棚澤豐	（東京）				

伊語學科（大正八年九月伊語部ト、昭和二年四月伊語ト改稱）

明治三十四年七月第一回別科修了生　（一人）

平松幾比古（和歌山）

明治三十五年七月第二回別科修了生　（一名）

森田鐵三郎（新潟）

明治三十六年七月第三回別科修了生　（一人）

菅野　圓（宮城）

明治四十五年三月第四回專修科修了生　（一人）

佐々木喜市（大阪）

大正三年三月第五回專修科修了生　（一人）

下位春吉（東京）

大正四年三月第六回專修科修了生　（一人）

柳　英一郎（新潟）

大正五年三月第七回專修科修了生　（一人）

伊東廣雄（長野）

大正六年三月第八回專修科修了生　（三人）（成績順）

井岡邦雄（東京）　瀧澤直七（栃木）

大正七年三月第九回專修科修了生　（三人）（成績順）

牛山　充（長野）　中岡彌高（岡山）　坂本竹藏（東京）

大正九年三月第十回專修科修了生　（二人）（ABC順）

林　竹次郎（東京）　今關達也（千葉）

昭和四年三月第十一回專修科修了者　（五名）（ABC順）

石本久治（北海道）　井澤　徹（東京）　桑名壽一（神奈川）　佐藤小太郎（東京）

磯邊馨次（東京）

西語學科（大正八年九月西語部ト、昭和二年四月西語ト改稱）

明治三十二年七月第一回別科修了生　（二　人）　（いろは順）

渡邊　清（東京）　津田弘季（岡山）

明治三十三年七月第二回別科修了生　（一　人）

堀口福彦（岡山）

明治三十四年七月第三回別科修了生　（一　人）

鈴木三郎（千葉）

明治三十八年七月第四回專修科（別科改稱）修了生　（五人）　（いろは順）

伊藤恒太郎（山口）　齋藤惣吉（山口）　眞田五十吉（東京）　遠藤信雄（群馬）

×大塚修（愛媛）

明治四十年三月第五回專修科修了生　（五　人）　（いろは順）

橋本靜（滋賀）　片山譲（德島）　大野基尚（大分）　宮崎信澄（福岡）

加藤順之介（茨城）

明治四十一年三月第六回專修科修了生　（三　人）　（いろは順）

緒田原重雄（福岡）　加毛肇（三重）　吾妻捨吉（宮城）

明治四十二年三月第七回專修科修了生　（二　人）　（いろは順）

國久作之助（福井）　杉本精（東京）

明治四十三年三月第八回專修科修了生　（五　人）　（いろは順）

宮田義男（福島）　若林高彦（愛知）　田山保世（東京）　鈴木眞靜（兵庫）

尾崎光美（宮崎）

大正二年三月第九回專修科修了生　（三　人）　（成績順）

駒崎秀嵐（兵庫）　齋藤準平（宮城）　田代己代次（東京）

大正十一年三月第十回專修科修了者　（九　名）　（ABC順）

淺川一衛（廣島）　來生鐵彌（山形）　長島壽義（東京）　岡本良知（富山）

石井重正（茨城）　日下部川勝（宮城）　中野哲雄（鹿兒島）　高濵房吉（福島）

加藤忠八（新潟）

大正十二年三月第十一回專修科修了者　（四　名）　（ABC順）

淺見泰一（北海道）　中馬　瞭（鹿兒島）　濱田茂實（和歌山）　山本憲太郎（靜岡）

大正十三年三月第十二回專修科修了者　（十五名）

（ABC順）

淺田高男（長崎）　磯田　勝（兵庫）　土屋春夫（靜岡）
出口一郎（東京）　北浦靜彥（奈良）　武藤原太（東京）　山本軍治郎（滋賀）
藤岡武雄（東京）　正木達二（東京）　成富信敏（佐賀）　江中幸嗣（東京）
服部寅雄（福岡）　嶺川日出男（佐賀）　下川義忠（東京）

大正十四年三月第十三回專修科修了者　（六名）

（ABC順）

古屋英男（東京）　松永聰司（群馬）　竿田秀直（兵庫）
加藤芳男（東京）　永見高治（東京）

大正十五年三月第十四回專修科修了者　（四名）

（ABC順）

堀内　勝（東京）　片山量平（長崎）　京谷補佐（秋田）　二階堂勸（新潟）

昭和二年三月第十五回專修科修了者　（六名）

（ABC順）

飯田　勗（愛媛）　仲田　忠（千葉）
今井　清（鳥取）　高岡宗一（熊本）　田中正夫（東京）　矢尾健三（東京）

青井孝市（滋賀）　影山德七（福島）　森川義規（熊本）　儀田三郎（千葉）

昭和三年三月第十六回專修科修了者　（十一名）

（ABC順）

今井修一（靜岡）　勝部時平（東京）　村社保倫（埼玉）　安富容雄（山梨）
岩下重信（長野）　近藤正雄（福島）　豐田乙夫（福岡）

昭和四年三月第十七回專修科修了者　（四名）

（ABC順）

岩尾庫夫（大分）　金　寅鉉（朝鮮）　小林　進（東京）　西村賢三郎（神奈川）

昭和五年三月第十八回專修科修了者　（七名）

（ABC順）

長谷場　充（鹿兒島）　熊井直之（群馬）　谷本榮（香川）　山名宗輿（東京）
小篠定恒（東京）　鮫島伊八（鹿兒島）　坪井盛善（東京）

昭和六年三月第十九回專修科修了者　（九名）

（ABC順）

原田一美（岡山）　中村　還（東京）　佐久間正（東京）　山口容夫（廣島）
加藤健太郎（神奈川）　荻島雄三（東京）　梁川清吉（岩手）
岸本四郎（山口）　佐々木洋之輔（東京）

昭和七年三月第二十回專修科修了者　（五名）

（ABC順）

羽島敏男（東京）　加藤正（靜岡）　國師亮（長崎）
市田彌一郎（京都）　儀田二郎（千葉）

昭和八年三月第二十一回專修科修了者　（五名）　（ABC順）

綾部英猪（東京）	伊藤要（東京）	鈴木日出夫（東京）	山内恒芳（東京）
伊東國吾（宮城）			

葡語學科

大正七年三月第一回專修科修了生　（四人）　（成績順）

十川成一（山口）　副島五十二（東京）　山崎幾平（靜岡）　石原昌榮（北海道）

大正八年三月第二回專修科修了生　（二人）　（成績順）

笠井儀夫（岡山）　大西浩太（岡山）

支那語學科（舊稱清語學科、大正二年改正、大正八年支那語部ト改稱）昭和二年四月支那語ト改稱）

明治三十二年七月第一回別科修了生　（六人）　（いろは順）

泉水信太郎（千葉）	加納政太郎（東京）	坂野竹之助（茨城）	日高賢吉郎（長崎）
小川運平（埼玉）	鎌田彌助（鹿兒島）		

明治三十三年七月第二回別科修了生　（七人）　（いろは順）

龜山玄明（岐阜）	田中慶太郎（京都）	大久保家道（東京）	佐藤長次郎（埼玉）
高岩勘次郎（福岡）	中島比多吉（埼玉）	福崎三次郎（鹿兒島）	
高比良勝二（長崎）	太田繁（東京）		

明治三十四年七月第三回別科修了生　（十七人）　（いろは順）

稻澤參三郎（宮崎）	成田文太夫（宮城）	大久保宣家（東京）	白藤芳夫（東京）
岡田瓢（長野）	中田金次郎（東京）	菊地三九郎（東京）	關菊廣（京都）
小澤銀十郎（長野）	村上久吉（東京）	菊川龜次郎（熊本）	
唐澤貽慶（東京）	大橋末彥（東京）	岸峰治郎（鳥取）	
高比良勝二（長崎）	太田繁（東京）	皆川秀孝（茨城）	

明治三十五年七月第四回別科修了生　（十一人）　（いろは順）

田中政吉（兵庫）	黑澤衆次郎（富山）	兒玉純（鹿兒島）	秋吉英三（東京）
宅野潔（山口）	桑原喜一（山口）	遠藤三藏（兵庫）	菊地榮（茨城）
村田儀三郎（愛媛）	松井英一郎（岐阜）	赤澤宇之助（鹿兒島）	

明治三十六年七月第五回別科修了生　（十三人）　（いろは順）

吉田興三郎（滋賀）	奥田猛（兵庫）	淺井周治（愛媛）	菅沼佐喜男（三重）
芳野五郎（東京）	山田茂三郎（富山）	北村一郎太（長崎）	
仲西次郎（福岡）	古谷儀之助（東京）	宮越健太郎（新潟）	
中川四郎（愛媛）	小池英次（福島）	須賀幸太郎（群馬）	

明治三十七年七月第六回別科修了生　（十二人）　（いろは順）

入澤豐（東京）	角田松次郎（群馬）	井上翠（兵庫）	清水知（愛知）
金田雄次（靜岡）	長澤貞（栃木）	太田貞吉（東京）	椎野榮一（新潟）
只野重次郎（宮城）	菜順平治（島根）	今邊郎（青森）	鈴木仁四郎（栃木）

明治三十八年七月第七回專修科（別科改稱）修了生　（十九人）　（いろは順）

岩村成中（千葉）	西田周平（富山）	荻島四三二（東京）	田淵清一兵衛（德島）
石原新七（埼玉）	岡山周藏（兵庫）	和田貫一郎（東京）	宇井英（東京）

草場　力（愛知）	松本義圓（廣島）	青木會太郎（奈良）	安藤堅次（岐阜）
山野井虎市（東京）	卷雄四郎（東京）	新井信次（東京）	森山德助（島根）
山崎成太郎（奈良）	福田勇（岐阜）	天野准一（愛知）	

明治三十九年七月第八回專修科修了生　（十七人）　（いろは順）

遠山吉之介（愛知）	加藤庸三（群馬）	小林源造（東京）	佐々木三利（福井）
鹿永政一（山口）	津田榮（大阪）	遠藤重男（福岡）	木下茂雄（東京）
富田康平（靜岡）	久保清吉（廣島）	寺嶌彌（東京）	
小澤銀次郎（東京）	福田清一（群馬）	荒川德一（東京）	
川橋正治郎（京都）	小林代次郎（東京）	齋藤伊右衛門（東京）	

明治四十年三月第九回專修科修了生　（二十四人）　（いろは順）

伊藤東一郎（岩手）	小山義龜（福岡）	黑田茂八（富山）	湯山半兵衞（神奈川）
池田良太郎（山形）	龜山猛治（北海道）	山本寅雄（東京）	行岡宇多之助（東京）
濱野萬吉（東京）	上遠野武（宮城）	福田英治（埼玉）	庄田規矩郎（東京）
長谷川豐男（埼玉）	瀧田二郎（東京）	近藤菊雄（富山）	下平晉（長野）
西島德太郎（東京）	大多和登實吉（宮崎）	朝比奈泰吉（兵庫）	守田藤之助（東京）
小川吉之助（東京）	大野鄉夫（東京）	木村重藏（福島）	關根富貴男（東京）

明治四十一年三月第十回專修科修了生　（十六人）　（いろは順）

今藏雛太郎（東京）	山田鎌次郎（新潟）	酒葉道信（東京）	三木宗太郎（德島）
村田友三郎（栃木）	松脇正昇（東京）	三枝一郎（東京）	樋口鐵六（東京）
植田一夫（神奈川）	後藤勢一（香川）	鮫島時應（鹿兒島）	森德次郎（靜岡）
栗山勝正（山口）	手塚武義（山梨）	水谷一之亮（三重）	杉本吉五郎（東京）

明治四十二年三月第十一回專修科修了生　（十三人）　（いろは順）

新島謙吉（東京）	中川好助（靜岡）	山田久太郎（富山）	菅眞人（愛知）
神谷豐左衞門（愛知）	中山忠次（和歌山）	山根・藤七（島根）	
高橋貞之助（東京）	長崎元一（東京）	齋藤清俊（秋田）	
中路留吉（福島）	村田春江（千葉）	菱伊新三郎（宮城）	

明治四十三年三月第十二回專修科修了生　（十人）　（いろは順）

市川保一（東京）	脇川文近（長崎）	矢部力雄（群馬）	宮崎太郎（東京）
今井健彥（靜岡）	內藤繁治（東京）	山田萬助（東京）	
秩父固太郎（東京）	中村米壽（長野）	小池二郎（東京）	

明治四十四年三月第十三回專修科修了生　（十人）　（成績順）

長谷部　巖（岐阜）　太田喜泰（茨城）
片桐　靖（新潟）　竹内源次郎（福岡）
島田一郎（埼玉）　中村三藏（香川）

明治四十五年三月第十四回專修科修了生（六人）（成績順）

荒井　怡（愛知）　吉田壽三郎（熊本）
濱中直樹（靜岡）　牧野錬太郎（愛知）

大正二年三月第十五回專修科修了生（十二人）（成績順）

菊池篤三（千葉）　中川　宮（神奈川）
小山清次（東京）　内田松三郎（愛知）
志摩　英（神奈川）　山寺吉之助（千葉）

大正三年三月第十六回專修科修了生（四人）（成績順）

貴志正雄（和歌山）　高橋　弘（東京）

大正九年三月第十七回專修科修了生（六人）（A B C順）

藤澤的一（大分）　金森良介（愛知）

杉山喜平（大阪）　岡松象雄（大分）
加藤建次郎（愛知）
今井仁平（兵庫）

櫻庭　巖（青森）　門馬龍之進（福島）

林　林之介（東京）　兒玉豪雄（廣島）
原田三平（山口）　石田　力（東京）
奥山　巖（大阪）　時田傳左衞門（埼玉）

坪倉俊之助（群馬）　長江信之助（栃木）

守谷武文（東京）　篠原　利（山梨）

數納兵治（富山）　竹村虎之助（東京）

大正十年三月第十八回專修科修了者（七名）（A B C順）

飯田藤治（東京）　黒岩幸男（群馬）　佐藤昇衞（新潟）　田代已代次（東京）
小山　豐（東京）　松浦珪三（長崎）　田中　豐（愛知）

大正十一年三月第十九回專修科修了者（九名）（A B C順）

藤井啓二（富山）　中原仁平（鳥取）　大森常勝（愛媛）　田村誠意（東京）
北川參治（岐阜）　大出龍造（栃木）　鈴木榮助（東京）　鳥居利三郎（京都）
橋川昌吉（神奈川）

大正十二年三月第二十回專修科修了者（十名）（A B C順）

遠藤正武（東京）　稻垣茂雄（滋賀）　西久保孝愛（東京）　大塚　輔（廣島）
日比谷　武之助（東京）　久保勝春（福岡）　乃萬　徹（愛媛）
堀田四郎（京都）　松本信次（東京）　小野寺榮助（東京）

大正十三年三月第二十一回專修科修了者（二十二名）（A B C順）

有元精一（岡山）　平井　清（宮城）　稻熊輝一（東京）　紙谷瑞賢（富山）
古川德次郎（福岡）　保坂保太郎（神奈川）　石垣純一（香川）　金川耕作（福島）

木村彦一郎（岐阜）　長澤規矩也（東京）　齋藤正敏（宮城）
北原源一郎（長野）　大越榮次郎（秋田）　關　芳膺（福岡）
松田昌壽（福岡）　小沼福松（茨城）　菅原米治郎（福井）
松岡義雄（愛媛）　大塚外次郎（富山）　須永彰三（栃木）

大正十四年三月第二十二回專修科修了者（六名）（ABC順）

茶谷忠治（兵庫）　加藤和作（東京）　土谷　潔（北海道）
林　太郎（東京）　川瀬侍郎（富山）　佐藤逸夫（神奈川）

大正十五年三月第二十三回專修科修了者（八名）（ABC順）

橋本武雄（東京）　岸本農武郎（岡山）　松岡道郎（岐阜）　李　丙義（朝鮮）
金子英輔（群馬）　香田彦太郎（佐賀）　門田茂樹（廣島）　湯淺正一（廣兒島）

昭和二年三月第二十四回專修科修了者（十三名）（ABC順）

秋本　惇（東京）　栗田　皖（靜岡）　柴原正夫（福島）　矢部健次郎（福島）
本間藤四郎（東京）　松岡雄二（埼玉）　杉浦守次郎（埼玉）
木下　豐（大分）　水田修一郎（京都）　鈴木吉武（靜岡）
小室華雲（新潟）　小澤果（靜岡）　丹治周吉（福島）

昭和三年三月第二十五回專修科修了者（十名）（ABC順）

秋山直太郎（東京）　紺野敏治（福島）　宮本　豐（大分）　吉野芳三（群馬）
引田義平（群馬）　丸木一郎（石川）　高山藤元（千葉）
石井軍治（千葉）　目加田誠（山口）　高浦嘉助（千葉）

昭和四年三月第二十六回專修科修了者（四名）（ABC順）

小松芳喬（東京）　西川　勇（福井）　野村總一郎（東京）　小方　博（東京）

昭和五年三月第二十七回專修科修了者（八名）（ABC順）

鷹澤毅之助（東京）　小出良介（東京）　大谷健二（東京）　實藤惠秀（廣島）
長谷川榮一（京都）　三橋慶次郎（千葉）　齋藤源次郎（東京）　吉田弘（岐阜）

昭和六年三月第二十八回專修科修了者（十一名）（ABC順）

倉本純一（廣島）　宮崎雄太郎（神奈川）　大石久雄（東京）　佐藤堅一（新潟）
丸山直光（新潟）　中川光國（滋賀）　岡巧郎（山口）　吉田幸一（靜岡）
益滿行信（東京）　尾川敬二（鳥取）　齋藤乙（千葉）

昭和七年三月第二十九回專修科修了者（九名）（ABC順）

秋吉員磨（大分）　板橋　豐（神奈川）
羽田俊雄（東京）　小林高四郎（神奈川）
井上隆一（長崎）

昭和八年三月第三十回專修科修了者　（十八名）　（ABC順）

淺羽克郎（東京）　廣川義和（東京）　富田定之助（佐賀）　山口米一（三重）
中条旭（愛知）　岩村成正（東京）　椎原二男（大分）　御橋豐太郎（東京）
原田壽夫（東京）　猿田稔（神奈川）
長谷川源次（兵庫）　久住秀之助（東京）
箕手利義（東京）　松山壽（千葉）

西本力（岡山）　武部仁（東京）
林景熊（臺灣）　富森茂樹（東京）
佐治武夫（鳥取）　内山清市（群馬）
榮田周蔵（山形）　上松一光（岐阜）

朝鮮語學科（舊稱韓語學科　明治四十四年一月改稱）

明治三十四年十月第一回別科修了生　（一人）

井上安次郎（京都）

明治三十九年七月第二回專修科（別科改稱）修了生　（五人）　（いろは順）

岡本柊之助（東京）　村木煥（三重）　比佐祐次郎（秋田）　杉原惣太郎（福島）
七連格太郎（岡山）

明治四十年三月第三回專修科修了生　（一人）

新納賢司（東京）

明治四十一年三月第四回專修科修了生　（二人）　（いろは順）

岸上靜民（愛知）　宮崎道雄（三重）

明治四十二年三月第五回專修科修了生　（三人）　（いろは順）

大谷任功（福島）　三宅知之（東京）

明治四十三年三月第六回專修科修了生　（四　人）　（いろは順）

多田　闇（鳥取）―田村京吉（岩手）―有山謙藏（埼玉）―三好泰雄（東京）

明治四十四年三月第七回專修科修了生　（二　人）　（成績順）

青木正春（山口）―大橋矩（東京）

明治四十五年三月第八回專修科修了生　（三　人）　（成績順）

藤田勇（鹿兒島）―南文止（大分）―山根藤七（島根）

速成科修了者

伊語部（昭和二年四月伊語ト改稱）

大正十一年三月第一回修了者　（十二名）　（ABC順）

平谷順三（三重）―杵淵勇（長野）―増井芳男（靜岡）―田代己代次（東京）

池野寅三（東京）―小島齊志（愛媛）―長野時雄（滋賀）―荐森直喜（東京）

神原泰（東京）―高興漉（朝鮮）―大野信三（東京）―渡邊紳一郎（鳥取）

大正十三年三月第二回修了者　（六　名）　（ABC順）

喜安貞雄（愛媛）―梨岡壽男（香川）―大川勝受（靜岡）―調武思（福島）

永井誠也（京都）―西原始郎（東京）

大正十五年三月第三回修了者　（十二名）　（ABC順）

藤城龍三（岡山）―久保田弘（北海道）―森川宣夫（東京）―大村吾一（福岡）

筑手國廣（東京）―窪田靜雄（鳥取）―森川義規（熊本）―田端芳太郎（東京）

岸克己（群馬）―工藤信（大分）―中島清夫（東京）―戸田保忠（茨城）

昭和二年三月第四回修了者　（六　名）　（ABC順）

石本久治（北海道）　前田貢（神奈川）　小野寺勝男（宮城）　佐藤昌（長野）
川口武一郎（廣島）　森滿二郎（埼玉）

昭和三年三月第五回修了者　（八名）（ABC順）

磯邊馨次（東京）　小出一郎（新潟）　村上靜夫（廣島）　佐藤小太郎（東京）
井澤徹（東京）　桑名壽一（神奈川）　大島亮吉（東京）　高橋好三（埼玉）

昭和四年三月第六回修了者　（六名）（ABC順）

野村一義（青森）　大神正德（滋賀）　山下利三郎（廣島）　横川豐太郎（岡山）
落合宜之（新潟）　高橋吉定（宮城）

昭和五年三月第七回修了者　（五名）（ABC順）

秦一郎（東京）　中井駿二（大阪）　冀谷政雄（福島）　渡邊轄二（新潟）
小松芳喬（東京）

昭和六年三月第八回修了者　（三名）（ABC順）

千葉俊郎（東京）　神谷金剛（靜岡）　香村文雄（東京）

昭和七年三月第九回修了者　（三名）（ABC順）

井上碌郎（北海道）　伊藤昭（東京）　伊澤好爲（山口）

昭和八年三月第十回修了者　（二名）（ABC順）

正木陽一（東京）　小幡不三男（東京）

西語學科

大正三年三月第一回修了生　（五人）（成績順）

大須勝（東京）　德島寬一（德島）　犬伏康平（德島）　岩淵繁樹（東京）
中西毅（北海道）

大正四年三月第二回修了生　（九人）（成績順）

山田鐵彥（大阪）　菊地治三郎（愛媛）　服部定雄（三重）　鈴木享三（三重）
加畑伊輔（京都）　門林安郎（大阪）　本多次郎（三重）　野田茂一郎（熊本）
久保田昇（長崎）

大正五年三月第三回修了生　（九人）（成績順）

十川成一（山口）　樋畑正己（東京）　有地了三（廣島）　姫井昇一（岡山）
濱崎龜太郎（東京）　渡部登（島根）　黑石元次（山口）　中島直己（東京）
松平潔（東京）

葡語部

（昭和二年四月葡語ト改稱）

大正十年三月第一回修了者

阿部彌門（山形）　笠井梧樓（山梨）
林田德彌太（長崎）　小松操（山形）

大正十四年三月第二回修了者

（六名）（ABC順）

安立綱光（東京）　中澤二郎（東京）
石津雄彦（廣島）　佐久間庸（東京）

大正十五年三月第三回修了者

（三名）（ABC順）

石本久治（北海道）　小坂俱成（山口）

昭和二年三月第四回修了者

（四名）（ABC順）

十川計一（香川）　谷本榮（香川）

昭和三年三月第五回修了者

（九名）（ABC順）

淺岡芳雄（東京）　大野保之（埼玉）
村山正道（岐阜）　高岡宗一（熊本）
中川勇藏（山形）　大村實（熊本）
高木清一（東京）　瀧尾增夫（東京）
內潟政二（東京）
照井次郎（岩手）　渡邊毅雄（東京）
龍野源德（鹿兒島）　山田清吉（千葉）
鶴海太郎（岡山）　吉田小五郎（新潟）

中尾嘉吉（島根）

昭和四年三月第六回修了者

（四名）（ABC順）

久我義明（千葉）　上野泰彥（東京）
松尾茂雄（長崎）　竹澤平太（千葉）

昭和五年三月第七回修了者

（十名）（ABC順）

阿部高意（岩手）　小原重夫（千葉）
岩崎克己（愛知）　名倉務（京都）
河內誠一郎（新潟）　西本伍一（山口）
塗谷次郎（石川）　山口儁三（千葉）
諏訪昇（靜岡）
植草定太郎（東京）

支那語學科

大正三年三月第一回修了生

（九人）（成績順）

戶川健三（大阪）　山口勝也（神奈川）
伊藤時雄（長野）　塚越島十郎（群馬）
荒井敏郎（德島）
渡邊紀平（新潟）　千坂保臣（東京）
大久保喜重治（岩手）　岡野庄藏（東京）

大正四年三月第二回修了生

（八人）（成績順）

渡邊哲（茨城）　小玉英一（愛知）
豐島五六（東京）　河相衛（朝鮮）

尹　亮　求（朝鮮）　木下淺吉（佐賀）　土井　豐（愛媛）　下川末市（長崎）

大正五年三月第三回修了生

（十三人）　（成績順）

米村滿男（熊本）　廣瀨主殿（山梨）　長島五三郎（兵庫）　鈴木晟太郎（栃木）
龍藏忠雄（大分）　犬丸鐵太郎（東京）　恒川泰次（奈良）
雨宮正雄（愛知）　水扳貞雄（愛知）　多田慶明（愛媛）
森忠雄（愛知）　森脇忠敏（埼玉）　木原文弼（滋賀）

大正六年三月第四回修了生

（十四人）　（成績順）

田邊桑三郎（島根）　菱沼文二（宮城）　村江汎之（鳥取）　平野賢吉（千葉）
柏木榮（兵庫）　今關達也（千葉）　竹中京太郎（東京）　川尻忠（秋田）
寺村豐次郎（滋賀）　板倉與三郎（熊本）　青木金之助（東京）
德久虎之助（佐賀）　平井清（宮城）　大倉野三郎（東京）

大正七年三月第五回修了生

（九人）　（成績順）

池田佐久馬（長崎）　清島重德（東京）　伊部唯一（福井）　大和田藤馬（福島）
中川敬治（京都）　石山陽三（埼玉）　成島武八（茨城）　柳澤五郎（長野）
松山悅次郎（愛知）

蒙古語部（昭和二年四月蒙古語ト改稱）

大正十一年三月第一回修了者

（一名）

渡邊卯一郎（新潟）

大正十三年三月第二回修了者

（五名）　（ABC順）

久保寺逸彥（山梨）　高柳信吉（新潟）　寺正利光（東京）　內田翠（愛知）
高師泰治（千葉）

大正十四年三月第三回修了者

（四名）　（ABC順）

林文雄（長崎）　柿原熊一（愛媛）　長澤矩規也（東京）　田端芳太郎（東京）

昭和二年三月第四回修了者

（三名）　（ABC順）

岸本農武郎（岡山）　森知虎（愛媛）　西川勇（福井）

昭和八年三月第五回修了者

（五名）　（ABC順）

森田峯吉（埼玉）　大塚恒雄（山梨）　白石春男（東京）　若月清市郎（栃木）
中村益二（東京）

馬來語部（昭和二年四月馬來語ト改稱）

大正十年三月第一回修了者

（四名）　（ABC順）

西村清保（富山）―沼邊　武（東京）―小川正永（大阪）―杉村飛車太郎（群馬）

大正十一年三月第二回修了者（五名）（ABC順）

府川辰造（神奈川）―鹽川峻一（長野）―武田幸太郎（岡山）―牛島國光（東京）

沼邊　武（東京）

大正十二年三月第三回修了者（五名）（ABC順）

阿部　勇（山形）―青木元次郎（滋賀）―武田豐藤（廣島）―田代已代次（東京）

蘆澤輝男（岡山）

大正十三年三月第四回修了者（四名）（ABC順）

三芳美之藏（富山）―和田福三郎（栃木）―渡邊一義（香川）―安村盛興（東京）

大正十四年三月第五回修了者（三名）（ABC順）

黒澤德明（茨城）―大塚正眞（福岡）―吉田　輝（大阪）

昭和三年三月第六回修了者（三名）（ABC順）

甲賀朝司（靜岡）―中塚業太郎（京都）―齋藤一三（東京）

昭和五年三月第七回修了者（一名）

李　益　堅（中華民國）

國　語

昭和二年三月第一回修了者（五名）（ABC順）

簇手國廣（東京）―岩生成一（福岡）―川崎秀一（廣島）―志村春久（山梨）

塀七郎（島根）

昭和三年三月第二回修了者（三名）（ABC順）

關谷昌四郎（栃木）―鈴木章夫（千葉）―幸田友成（東京）

昭和四年三月第三回修了者（七名）（ABC順）

安藤俊郎（愛媛）―品田仁之松（神奈川）―都業四十男（東京）―谷川福次郎（熊本）

伊藤富雄（山形）―鳥居御嶽（東京）―村井寬（東京）

昭和六年三月第四回修了者（三名）（ABC順）

北鄉貴利（鹿兒島）　岩崎克己（愛知）

昭和七年三月第五回修了者

（二名）（ABC順）

原島佑三（埼玉）　平井晃（京都）

昭和八年三月第六回修了者

（三名）（ABC順）

森重秋（鹿兒島）　岡本茂（千葉）　鹽見繁行（京都）

ヒンドスタニー語部

大正十一年三月第一回修了者

（一名）

間野一喜（石川）

大正十二年三月第二回修了者

（三名）（ABC順）

大西英一（兵庫）　尾崎貫一郎（埼玉）　宰務五一郎（東京）

朝鮮語學科（大正八年九月以降朝鮮語部ト改稱）

大正三年三月第一回修了生

（五人）（成績順）

副島壽人（長崎）　鬼塚陸藏（東京）　山本元次郎（千葉）　小濵村龜三（神奈川）

高濱由己（大分）

大正十一年三月第二回修了者

（二名）（ABC順）

平井良雄（香川）　中村又一（佐賀）

大正十二年三月第三回修了者

（一名）

橫江清兵衞（滋賀）

明治四十年三月速成科修了生（明治三十九年三月設置同四十年三月廢止）（修業年限一ケ年授業時數一週二十二時間）

（十九人）（いろは順）

露語學科

渡邊源四郎（石川）　根岸伊七（群馬）　皆川大郎（山口）

程田藤吉（東京）　奥山光茂（鹿兒島）　三浦安兵衞（愛知）

戸川末三（東京）　押見寅之助（山口）　鹽田彌惣八（滋賀）

竹室卯造（兵庫）　山口甲子男（靜岡）　茂木德晉（長野）

宗文江（東京）　保田宗治郎（神奈川）

清語學科

（二十九人）（いろは順）

若本正木（長野）　林善一（東京）　西山章二（福島）　細川久（岩手）

土井芳輔（山口）　長竹元吉（千葉）
川谷宮太郎（高知）　中村春之助（神奈川）
立花慶應（福岡）　中村憲延（埼玉）
高山好（新潟）　矢野業之亟（岩手）
辰川質（愛媛）　松岡龍吉（岐阜）
竹中信以（東京）　松田智禮（愛媛）
塚原守重（山梨）　松浦捨吉（和歌山）

韓語學科（十四人）

池田傳次（秋田）　野澤寛一（新潟）
石川竹三郎（埼玉）　興津健夫（東京）
田中德太郎（青森）　黒羽委明（茨城）
中澤鐵太郎（東京）　山中忠太（三重）

藤岡藤市（德島）　澁谷兵八（岐阜）
舟津勝三（東京）　清水清次（山形）
江口是三郎（佐賀）　鈴木一良（東京）
新井慶太郎（埼玉）　鈴木榮之亟（長野）
秋元雄治（群馬）
酒田恒記（愛媛）
岸田國太郎（京都）

（いろは順）

松岡末廣（愛媛）　島谷直方（富山）
足助嘉一郎（長野）　畠像兒（愛知）
北山清（茨城）
宮崎侃（東京）

東洋語速成科修業生

（明治四十一年四月設置同四十四年三月廢止）
（修業年限一ケ年）
（授業時數一週二十二時間）

馬來語學科

明治四十二年三月第一回修業生

飯塚重一（埼玉）　加藤治躬（靜岡）
林虎太（香川）　笠村思敬（栃木）
小野良吉（大分）　田中與平多（長野）
袁島良三（埼玉）　中村庄太郎（福井）

明治四十三年三月第二回修業生

×岩室哲次郎（廣島）　秋保俊治（宮城）

明治四十四年三月第三回修業生

森岡三郎（東京）　板垣龍三（山形）

ヒンドスタニー語學科

（十六人）　（いろは順）

中島懋一（東京）　松井秀三（鳥取）
宇野耕愛（東京）　松信春之助（茨城）
野口郁彦（北海道）　近藤正二（東京）
久保田善一郎（茨城）　寺尾熊次（北海道）

明治四十三年三月第二回修業生

（二人）　（いろは順）

×木全省吾（愛知）　山道儀三郎（群馬）

明治四十四年三月第三回修業生

（四人）　（成績順）

明治四十二年三月第一回修業生

稻見憲吉（栃木）　鷹屋祐攝（富山）　（十二人）　（いろは順）
小栗明（岐阜）　武關久壽（栃木）　上田孝三（三重）　山室康吉（宮崎）
金村貞太郎（東京）　土屋政次郎（岡山）　鵜飼仙之助（岐阜）　赤羽宇重（長野）

明治四十三年三月第二回修業生

石山善壽（栃木）　野口一三郎（新潟）　大澤友吉（千葉）　阿湍得壽（京都）
（二人）　（いろは順）

明治四十四年三月第三回修業生

豐田忠太郎（石川）　神崎友吉（栃木）　（五人）　（成績順）
渥昧盤（靜岡）　江尻正一（茨城）　横山金三郎（滋賀）

タミル語學科

明治四十二年三月第一回修業生

田中俊三（和歌山）　柳田光之助（東京）　（四人）　（いろは順）
秋元善藏（青森）　三宅正（愛媛）

明治四十三年三月第二回修業生

（二人）　（いろは順）

和田逸三（兵庫）　渥昧盤（靜岡）

蒙古語學科

明治四十二年第一回修業生

石山福治（新潟）　吉田順三（東京）　（六人）　（いろは順）
西田與左衛門（東京）　中島友次郎（群馬）　藤森勇（長野）　三俣二郎（群馬）

明治四十三年三月第二回修業生

高橋安親（新潟）　高田治作（北海道）　（三人）　（いろは順）
猪狩重光（北海道）

明治四十四年三月第三回修業生

神谷衡平（東京）　宮島鹿雄（佐賀）　（七人）　（成績順）
淺野睦（東京）　片野孝三（福島）
笠井清三郎（三重）　大地亮平（千葉）
脇川文近（長崎）

東京音樂學校委託伊語特別科修了生（修業年限二ヶ年 授業時間一週六時間）

大正三年三月修業生（一人）

松島　彝（東京）

東京府委託支那語特別科修業生（修業年限二ヶ年 授業時數一週六時間）

大正七年七月修業生（十八人）（成績順）

天野源一（靜岡）	松本篤太郎（東京）	原義一良（東京）	宮城富朗（東京）
矢野重弘（北海道）	安藤義照（東京）	增田達雄（滋賀）	松本勇（愛知）
椿　肆次（熊本）	漆畑五郎（靜岡）	神保文一（東京）	藤野周太郎（大阪）
日下定次郎（東京）	中山武（廣島）	萩谷直（茨城）	
原西季雄（東京）	杉浦鉦一（愛知）	堀井芳三郎（京都）	

第五臨時教員養成所卒業生（明治三十五年四月設置同三十九年三月廢止 英語科、修業年限二ヶ年）

明治三十七年三月第一回卒業生（二十六人）（いろは順）

泉本覺一郎（奈良）	岡村邦雄（三重）	坂部和三郎（愛知）	
×池田朝長（東京）	小野　囊（青森）	×國枝　昇（熊本）	木下芳雄（東京）
×芳賀重治郎（宮城）	川瀨衆治（山形）	×八十與一（兵庫）	森　龍（大分）
×橋村憲五郎（高知）	金井半三郎（群馬）	山田孝太郎（茨城）	關　恰（鹿兒島）
二瓶兵二（福島）	高橋良一（岩手）	山本市太郎（島根）	×島木　康（栃木）
越智國一（愛媛）	並河良孝（島根）	小林　光（東京）	
小川政之助（香川）	向高良夫（宮崎）	江副秀喜（熊本）	

明治三十九年三月第二回卒業生（二十五人）（いろは順）

飾士瀧治（高知）	田子富彥（鳥取）	眞方友二（宮崎）	清水　勇（愛媛）
西村昂三（島根）	瀧崎　保（長野）	×福元一二（鹿兒島）	平岩元吉（愛知）
×堀尾柳市（島根）	名原廣三郎（島根）	×五島退藏（德島）	須藤參治（岩手）
本郷良喜治（宮城）	仲本吉一郎（沖繩）	今元　鶴（青森）	鈴木龜壽（東京）
富永置三（東京）	夏原由三郎（滋賀）	赤井知洗（奈良）	
小田四郎（宮崎）	×大下　盛（香川）	佐藤國彥（福島）	
加藤治躬（靜岡）	山本甚輔（山口）	宮田峰一（廣島）	

第十二臨時教員養成所（大正十五年四月設置昭和六年三月廢止　英語科修業年限三ヶ年

昭和四年三月第一回卒業者

（二十五名）（ABC順）

伊達讓太郎（東京）	木暮義雄（群馬）	富永憲章（德島）	鮫島龍褒（東京）
福井恒（北海道）	前田一（三重）	內川健吾（長野）	澤野七郎（福島）
後藤太丸（大分）	宮城敏男（沖繩）	山下巳代治（神奈川）	鹽見太郎（京都）
市川千秋（長野）	森棟三（愛知）	吉田發美夫（福岡）	白津眞（宮城）
笠山哲夫（岡山）	森良雄（愛知）		鈴木廣次（靜岡）
鴨志田義幸（茨城）	奈良眞一（岩手）		高橋理平（福島）
小林康彥（東京）	大槻桃丸（東京）		田村市郎（山梨）

昭和五年三月第二回卒業者

（二十七名）（ABC順）

淺井勝（三重）	岩原武雄（長崎）	前田健三（宮崎）	北村一郎（岩手）
吹野信夫（東京）	神谷秋津（愛知）	松島熊男（鳥取）	北村重治（靜岡）
林貫一（長野）	金井正夫（群馬）	三繩千代治（神奈川）	小林梅次郎（神奈川）
飯尾太郎（愛媛）	金子金一（神奈川）	中臺武夫（千葉）	小池透（神奈川）

野田三彥（福岡）	唯野一（福島）	寺本彌市（東京）	安原克己（廣島）
太田三郎（兵庫）	高山俊男（千葉）	山本秀男（東京）	吉田忠一（愛知）
佐久間武雄（千葉）	丹基喜與美（福島）	山下亮（山梨）	

昭和六年三月第三回卒業者

（二十三名）（ABC順）

秋山一（茨城）	田中重男（神奈川）	永松春彥（東京）	志賀三重（山梨）
芦塚瑛（長崎）	石川清光（茨城）	中根龜壽（福島）	財部長盛（鹿兒島）
後藤德太郎（千葉）	石丸俊行（大分）	大日方直（茨城）	竹下正（鹿兒島）
平松榮（三重）	金澤七十四（岡山）	青柳喜一（神奈川）	內田實（靜岡）
飯田龜代治（千葉）	川原友繁（德島）	恩地二郎（福岡）	若宮正吾（東京）
生島俊雄（奈良）	清田政則（千葉）	關武治（新潟）	

入學志願者入學者卒業者修了者數年次表

英語部

（大正八年マデハ英語學科ト稱ス以下之ニ準ズ
本科各語部入學志願者中第二及第三志望者ノ數ハ大正十三年ヨリ掲ゲタリ
※印ハ速成科）

年次	本科 入學志願者	本科 入學者	本科 卒業者	專修科 入學志願者	專修科 入學者	專修科 修了者
明治三十年	二八	二八			二四	
同三十一年	九一	一七			四四	
同三十二年	一二二	二八			四二	一二
同三十三年			一〇	七四	二九	六
同三十四年	一二〇	三六	一一	一九六	五四	五
同三十五年	一四四	二八	一九	二〇七	五四	一六
同三十六年	一八九	二九	六	一八九	五〇	一[illegible]
同三十七年	一八五	三〇	一六	一五五	六二	一二
同三十八年	二一五	二九	一九	一八六	六四	一九
同三十九年	二一一	三〇	三〇	二一五	四六	二四
同四十年	一九一	三〇	三〇	一九七	七〇	二二
同四十一年	二二四	二七	二三	一八〇	六九	一四
同四十二年	二四〇	三〇	二八	二八五	七一	二二
同四十三年	一九〇	二六	二三	一二〇	七八	一九
同四十四年	一八七	三五	三二	七九	五四	二七
同四十五年	二一三	三〇	一九	八四	四九	三二
大正二年	二三二（內第二志望二）	三〇	二一	八一	五四	一九
同三年	二四一（內第二志望七）	二八	二二	七一	三三	一五
同四年	二三七（內第二志望六）	二八	二四	九〇	五〇	九
同五年	二九三（內第二志望一八）	二九	一九	八五	四八	一一
同六年	三〇二（內第二志望二）	三四	二一	八二	五三	一四
同七年	四三九	六二	二六	一二九	六八	二三
同八年	四二〇	三七	二七	二〇一	七三	二六
同九年	文科一〇八 貿易科三九二	文科一四 貿易科一六	二九	二六七	七六	一八
同十年	文科一八四 貿易科三五二	文科九 貿易科三四	文科一七 貿易科三〇	三一五	一〇二	二〇
同十一年	文科三五一 貿易科三九七	文科一三 貿易科一六	文科一四 貿易科一三	三六一	七二	二七
同十二年	文科二五六 貿易科二二六	文科一二 貿易科一三	文科一三 貿易科一二	三六七	七八	三〇
同十三年	（外第二志望四五 第三志望二三）文科二四〇 貿易科二一九	文科三〇 貿易科三四	文科二一 貿易科二五	三四四	八四	二八
同十四年	（外第二志望五五 第三志望二六）文科二五一 貿易科二五二	文科一六 貿易科九	文科一三 貿易科一四	二五六	八七	三七
同十五年	（外第二志望九 第三志望五）文科二四七 貿易科一五二	文科二七 貿易科一三	文科一二 貿易科一〇	一九四	七三	二七
昭和二年	（外第二志望四 第三志望七）文科二九三 貿易科一六六	文科四四 貿易科二三	文科二五 貿易科二八	一四四	六八	四二
同三年	（外第二志望五 第三志望六）文科二二三 法科五〇 貿易科一二五	文科一四 法科五 貿易科一五	文科一四 貿易科一〇	一二二	七四	三八
同四年	（外第二志望六 第三志望四）文科一八五 法科四七 貿易科九七	文科一二 法科五 貿易科一六	文科二四 貿易科一二	一一七	六六	二五
同五年	（外第二志望六）文科一四一 法科二四 貿易科八四	文科一五 法科五 貿易科一五		一一八	六三	二五
同六年	（外第二志望三六）文科一三八 法科二六 貿易科六七	文科一二 法科六 貿易科一七	文科二八 法科一〇 貿易科一九	一〇四	六五	一九
同七年	（外第二志望六）文科一三三 法科七三 貿易科一〇六	文科一一 法科五 貿易科一九	文科一一 法科四 貿易科一二	七七	四八	三五
同八年	（外第二志望八）文科一〇八 法科五四 貿易科九一	文科一一 法科五 貿易科一六	文科一一 法科三 貿易科一一	九五	五三	二五

本科

入學志願者	入學者	卒業者	年次
一五	一五	一四	明治三十年
四八	二一	一四	同三十一年
五三	二四	一八	同三十二年
四五	一四	二〇	同三十三年
四二	三〇	九	同三十四年
五九	二九	一七	同三十五年
五〇	二九	九	同三十六年
六〇	三〇	一三	同三十七年
一〇六	二九	一三	同三十八年
四六	二七	二〇	同三十九年
四五	二七	一四	同四十年
五八	二六	一五	同四十一年
三六	二五	一八	同四十二年
五九	二七	一四	同四十三年
五三	二四	一五	同四十四年
九一	二五	一五	同四十五年
一〇六	二四	一四	大正二年
九九	二五	一四	同三年

專修科

入學志願者	入學者	修了者	年次
三五	三五	九	明治三十年
五九	五二	六	同三十一年
六二	六二	七	同三十二年
七八	七二	三	同三十三年
八八	八二	四	同三十四年
六一	四八	八	同三十五年
六七	五〇	一〇	同三十六年
八一	三五	六	同三十七年
一〇四	三三	八	同三十八年
六六	二六	五	同三十九年
三九	三二	六	同四十年
三三	三五	七	同四十一年
一〇九	三八	四	同四十二年
五二	四四	七	同四十三年
四八	四五	六	同四十四年
五五	四三	四	同四十五年
四五	四〇	七	同四十六年
四七	四七	一〇	同四十七年
五一	五九	一三	同四十八年
四四	五三	一一	同四十九年

獨語部

入學志願者	入學者	卒業者	年次
二二	二五	一三	同五年
一九六	二八	二〇	同六年
二四〇	三一	一七	同七年
一五三	三一	二四	同八年
一七五	一三	二五	同九年
一九〇	一四	一六	同十年
一〇八	一二	一八	同十一年
一二七	一二	一九	同十二年
一三九	一二	一九	同十三年
一八八	一二	一〇	同十四年
一九一	一二	一一	同十五年
一九五	一二	一二	昭和二年
一九七	一二	一三	同三年
一九九	一二	一四	同四年
二〇〇	一二	一五	同五年
二〇一	一二	一五	同六年
二〇二	一二	一六	同七年
二〇三	一二	一七	同八年
二〇四	一二	一八	同九年
二〇五	一二	一八	同十年
二〇六	一二	一八	同十一年
二〇七	一二	一八	同十二年
二〇八	一二	一八	同十三年
二〇九	一二	一八	同十四年
二一〇	一二	一八	同十五年
二一一	一二	一八	同十六年
二一二	一二	一八	同十七年
二一三	一二	一八	同十八年
二一四	一二	一八	同十九年
二一五	一二	一八	同二十年
二一六	一二	一八	同二十一年
二一七	一二	一八	同二十二年
二一八	一二	一八	同二十三年
二一九	一二	一八	同二十四年
二二〇	一二	一八	同二十五年
二二一	一二	一八	同二十六年
二二二	一二	一八	同二十七年
二二三	一二	一八	同二十八年
二二四	一二	一八	同二十九年
二二五	一二	一八	同三十年
二二六	一二	一八	同三十一年
二二七	一二	一八	同三十二年
二二八	一二	一八	同三十三年
二二九	一二	一八	同三十四年
二三〇	一二	一八	同三十五年
二三一	一二	一八	同三十六年
二三二	一二	一八	同三十七年
二三三	一二	一八	同三十八年
二三四	一二	一八	同三十九年
二三五	一二	一八	同四十年
二三六	一二	一八	同四十一年
二三七	一二	一八	同四十二年
二三八	一二	一八	同四十三年
二三九	一二	一八	同四十四年
二四〇	一二	一八	同四十五年
二四一	一二	一八	同四十六年
二四二	一二	一八	同四十七年
二四三	一二	一八	同四十八年
二四四	一二	一八	同四十九年
二四五	一二	一八	同五十年
二四六	一二	一八	同五十一年
二四七	一二	一八	同五十二年
二四八	一二	一八	同五十三年
二四九	一二	一八	同五十四年
二五〇	一二	一八	同五十五年
二五一	一二	一八	同五十六年
二五二	一二	一八	同五十七年
二五三	一二	一八	同五十八年
二五四	一二	一八	同五十九年
二五五	一二	一八	同六十年
二五六	一二	一八	同六十一年
二五七	一二	一八	同六十二年
二五八	一二	一八	同六十三年
二五九	一二	一八	同六十四年
二六〇	一二	一八	同六十五年
二六一	一二	一八	同六十六年
二六二	一二	一八	同六十七年
二六三	一二	一八	同六十八年
二六四	一二	一八	同六十九年
二六五	一二	一八	同七十年
二六六	一二	一八	同七十一年
二六七	一二	一八	同七十二年
二六八	一二	一八	同七十三年
二六九	一二	一八	同七十四年
二七〇	一二	一八	同七十五年
二七一	一二	一八	同七十六年
二七二	一二	一八	同七十七年
二七三	一二	一八	同七十八年
二七四	一二	一八	同七十九年
二七五	一二	一八	同八十年
二七六	一二	一八	同八十一年
二七七	一二	一八	同八十二年
二七八	一二	一八	同八十三年
二七九	一二	一八	同八十四年
二八〇	一二	一八	同八十五年
二八一	一二	一八	同八十六年
二八二	一二	一八	同八十七年
二八三	一二	一八	同八十八年
二八四	一二	一八	同八十九年
二八五	一二	一八	同九十年
二八六	一二	一八	同九十一年
二八七	一二	一八	同九十二年
二八八	一二	一八	同九十三年
二八九	一二	一八	同九十四年
二九〇	一二	一八	同九十五年
二九一	一二	一八	同九十六年
二九二	一二	一八	同九十七年
二九三	一二	一八	同九十八年
二九四	一二	一八	同九十九年
二九五	一二	一八	同百年
二九六	一二	一八	同百一年
二九七	一二	一八	同百二年
二九八	一二	一八	同百三年
二九九	一二	一八	同百四年
三〇〇	一二	一八	同百五年
三〇一	一二	一八	同百六年
三〇二	一二	一八	同百七年
三〇三	一二	一八	同百八年
三〇四	一二	一八	同百九年
三〇五	一二	一八	同百十年
三〇六	一二	一八	同百十一年
三〇七	一二	一八	同百十二年
三〇八	一二	一八	同百十三年
三〇九	一二	一八	同百十四年
三一〇	一二	一八	同百十五年
三一一	一二	一八	同百十六年
三一二	一二	一八	同百十七年
三一三	一二	一八	同百十八年
三一四	一二	一八	同百十九年
三一五	一二	一八	同百二十年
三一六	一二	一八	同百二十一年
三一七	一二	一八	同百二十二年
三一八	一二	一八	同百二十三年
三一九	一二	一八	同百二十四年
三二〇	一二	一八	同百二十五年
三二一	一二	一八	同百二十六年
三二二	一二	一八	同百二十七年
三二三	一二	一八	同百二十八年
三二四	一二	一八	同百二十九年
三二五	一二	一八	同百三十年
三二六	一二	一八	同百三十一年
三二七	一二	一八	同百三十二年
三二八	一二	一八	同百三十三年
三二九	一二	一八	同百三十四年
三三〇	一二	一八	同百三十五年
三三一	一二	一八	同百三十六年
三三二	一二	一八	同百三十七年
三三三	一二	一八	同百三十八年
三三四	一二	一八	同百三十九年
三三五	一二	一八	同百四十年
三三六	一二	一八	同百四十一年
三三七	一二	一八	同百四十二年
三三八	一二	一八	同百四十三年
三三九	一二	一八	同百四十四年
三四〇	一二	一八	同百四十五年
三四一	一二	一八	同百四十六年
三四二	一二	一八	同百四十七年
三四三	一二	一八	同百四十八年
三四四	一二	一八	同百四十九年
三四五	一二	一八	同百五十年
三四六	一二	一八	同百五十一年
三四七	一二	一八	同百五十二年
三四八	一二	一八	同百五十三年
三四九	一二	一八	同百五十四年
三五〇	一二	一八	同百五十五年
三五一	一二	一八	同百五十六年
三五二	一二	一八	同百五十七年
三五三	一二	一八	同百五十八年
三五四	一二	一八	同百五十九年
三五五	一二	一八	同百六十年
三五六	一二	一八	同百六十一年
三五七	一二	一八	同百六十二年
三五八	一二	一八	同百六十三年
三五九	一二	一八	同百六十四年
三六〇	一二	一八	同百六十五年
三六一	一二	一八	同百六十六年
三六二	一二	一八	同百六十七年
三六三	一二	一八	同百六十八年
三六四	一二	一八	同百六十九年
三六五	一二	一八	同百七十年
三六六	一二	一八	同百七十一年
三六七	一二	一八	同百七十二年
三六八	一二	一八	同百七十三年
三六九	一二	一八	同百七十四年
三七〇	一二	一八	同百七十五年
三七一	一二	一八	同百七十六年
三七二	一二	一八	同百七十七年
三七三	一二	一八	同百七十八年
三七四	一二	一八	同百七十九年
三七五	一二	一八	同百八十年
三七六	一二	一八	同百八十一年
三七七	一二	一八	同百八十二年
三七八	一二	一八	同百八十三年
三七九	一二	一八	同百八十四年
三八〇	一二	一八	同百八十五年
三八一	一二	一八	同百八十六年
三八二	一二	一八	同百八十七年
三八三	一二	一八	同百八十八年
三八四	一二	一八	同百八十九年
三八五	一二	一八	同百九十年
三八六	一二	一八	同百九十一年
三八七	一二	一八	同百九十二年
三八八	一二	一八	同百九十三年
三八九	一二	一八	同百九十四年
三九〇	一二	一八	同百九十五年
三九一	一二	一八	同百九十六年
三九二	一二	一八	同百九十七年
三九三	一二	一八	同百九十八年
三九四	一二	一八	同百九十九年
三九五	一二	一八	同二百年
三九六	一二	一八	同二百一年
三九七	一二	一八	同二百二年
三九八	一二	一八	同二百三年
三九九	一二	一八	同二百四年
四〇〇	一二	一八	同二百五年
四〇一	一二	一八	同二百六年
四〇二	一二	一八	同二百七年
四〇三	一二	一八	同二百八年
四〇四	一二	一八	同二百九年
四〇五	一二	一八	同二百十年
四〇六	一二	一八	同二百十一年
四〇七	一二	一八	同二百十二年
四〇八	一二	一八	同二百十三年
四〇九	一二	一八	同二百十四年
四一〇	一二	一八	同二百十五年
四一一	一二	一八	同二百十六年
四一二	一二	一八	同二百十七年
四一三	一二	一八	同二百十八年
四一四	一二	一八	同二百十九年
四一五	一二	一八	同二百二十年
四一六	一二	一八	同二百二十一年
四一七	一二	一八	同二百二十二年
四一八	一二	一八	同二百二十三年
四一九	一二	一八	同二百二十四年
四二〇	一二	一八	同二百二十五年
四二一	一二	一八	同二百二十六年
四二二	一二	一八	同二百二十七年
四二三	一二	一八	同二百二十八年
四二四	一二	一八	同二百二十九年
四二五	一二	一八	同二百三十年
四二六	一二	一八	同二百三十一年
四二七	一二	一八	同二百三十二年
四二八	一二	一八	同二百三十三年
四二九	一二	一八	同二百三十四年
四三〇	一二	一八	同二百三十五年
四三一	一二	一八	同二百三十六年
四三二	一二	一八	同二百三十七年
四三三	一二	一八	同二百三十八年
四三四	一二	一八	同二百三十九年
四三五	一二	一八	同二百四十年
四三六	一二	一八	同二百四十一年
四三七	一二	一八	同二百四十二年
四三八	一二	一八	同二百四十三年
四三九	一二	一八	同二百四十四年
四四〇	一二	一八	同二百四十五年
四四一	一二	一八	同二百四十六年
四四二	一二	一八	同二百四十七年
四四三	一二	一八	同二百四十八年
四四四	一二	一八	同二百四十九年
四四五	一二	一八	同二百五十年
四四六	一二	一八	同二百五十一年
四四七	一二	一八	同二百五十二年
四四八	一二	一八	同二百五十三年
四四九	一二	一八	同二百五十四年
四五〇	一二	一八	同二百五十五年
四五一	一二	一八	同二百五十六年
四五二	一二	一八	同二百五十七年
四五三	一二	一八	同二百五十八年
四五四	一二	一八	同二百五十九年
四五五	一二	一八	同二百六十年
四五六	一二	一八	同二百六十一年
四五七	一二	一八	同二百六十二年
四五八	一二	一八	同二百六十三年
四五九	一二	一八	同二百六十四年
四六〇	一二	一八	同二百六十五年
四六一	一二	一八	同二百六十六年
四六二	一二	一八	同二百六十七年
四六三	一二	一八	同二百六十八年
四六四	一二	一八	同二百六十九年
四六五	一二	一八	同二百七十年
四六六	一二	一八	同二百七十一年
四六七	一二	一八	同二百七十二年
四六八	一二	一八	同二百七十三年
四六九	一二	一八	同二百七十四年
四七〇	一二	一八	同二百七十五年
四七一	一二	一八	同二百七十六年
四七二	一二	一八	同二百七十七年
四七三	一二	一八	同二百七十八年
四七四	一二	一八	同二百七十九年
四七五	一二	一八	同二百八十年
四七六	一二	一八	同二百八十一年
四七七	一二	一八	同二百八十二年
四七八	一二	一八	同二百八十三年
四七九	一二	一八	同二百八十四年
四八〇	一二	一八	同二百八十五年
四八一	一二	一八	同二百八十六年
四八二	一二	一八	同二百八十七年
四八三	一二	一八	同二百八十八年
四八四	一二	一八	同二百八十九年
四八五	一二	一八	同二百九十年
四八六	一二	一八	同二百九十一年
四八七	一二	一八	同二百九十二年
四八八	一二	一八	同二百九十三年
四八九	一二	一八	同二百九十四年
四九〇	一二	一八	同二百九十五年
四九一	一二	一八	同二百九十六年
四九二	一二	一八	同二百九十七年
四九三	一二	一八	同二百九十八年
四九四	一二	一八	同二百九十九年
四九五	一二	一八	同三百年
四九六	一二	一八	同三百一年
四九七	一二	一八	同三百二年
四九八	一二	一八	同三百三年
四九九	一二	一八	同三百四年
五〇〇	一二	一八	同三百五年
五〇一	一二	一八	同三百六年
五〇二	一二	一八	同三百七年
五〇三	一二	一八	同三百八年
五〇四	一二	一八	同三百九年
五〇五	一二	一八	同三百十年
五〇六	一二	一八	同三百十一年
五〇七	一二	一八	同三百十二年
五〇八	一二	一八	同三百十三年
五〇九	一二	一八	同三百十四年
五一〇	一二	一八	同三百十五年
五一一	一二	一八	同三百十六年
五一二	一二	一八	同三百十七年
五一三	一二	一八	同三百十八年
五一四	一二	一八	同三百十九年
五一五	一二	一八	同三百二十年
五一六	一二	一八	同三百二十一年
五一七	一二	一八	同三百二十二年
五一八	一二	一八	同三百二十三年
五一九	一二	一八	同三百二十四年
五二〇	一二	一八	同三百二十五年
五二一	一二	一八	同三百二十六年
五二二	一二	一八	同三百二十七年
五二三	一二	一八	同三百二十八年
五二四	一二	一八	同三百二十九年
五二五	一二	一八	同三百三十年
五二六	一二	一八	同三百三十一年
五二七	一二	一八	同三百三十二年
五二八	一二	一八	同三百三十三年
五二九	一二	一八	同三百三十四年
五三〇	一二	一八	同三百三十五年
五三一	一二	一八	同三百三十六年
五三二	一二	一八	同三百三十七年
五三三	一二	一八	同三百三十八年
五三四	一二	一八	同三百三十九年
五三五	一二	一八	同三百四十年
五三六	一二	一八	同三百四十一年
五三七	一二	一八	同三百四十二年
五三八	一二	一八	同三百四十三年
五三九	一二	一八	同三百四十四年
五四〇	一二	一八	同三百四十五年
五四一	一二	一八	同三百四十六年
五四二	一二	一八	同三百四十七年
五四三	一二	一八	同三百四十八年
五四四	一二	一八	同三百四十九年
五四五	一二	一八	同三百五十年
五四六	一二	一八	同三百五十一年
五四七	一二	一八	同三百五十二年
五四八	一二	一八	同三百五十三年
五四九	一二	一八	同三百五十四年
五五〇	一二	一八	同三百五十五年
五五一	一二	一八	同三百五十六年
五五二	一二	一八	同三百五十七年
五五三	一二	一八	同三百五十八年
五五四	一二	一八	同三百五十九年
五五五	一二	一八	同三百六十年
五五六	一二	一八	同三百六十一年
五五七	一二	一八	同三百六十二年
五五八	一二	一八	同三百六十三年
五五九	一二	一八	同三百六十四年
五六〇	一二	一八	同三百六十五年
五六一	一二	一八	同三百六十六年
五六二	一二	一八	同三百六十七年
五六三	一二	一八	同三百六十八年
五六四	一二	一八	同三百六十九年
五六五	一二	一八	同三百七十年
五六六	一二	一八	同三百七十一年
五六七	一二	一八	同三百七十二年
五六八	一二	一八	同三百七十三年
五六九	一二	一八	同三百七十四年
五七〇	一二	一八	同三百七十五年
五七一	一二	一八	同三百七十六年
五七二	一二	一八	同三百七十七年
五七三	一二	一八	同三百七十八年
五七四	一二	一八	同三百七十九年
五七五	一二	一八	同三百八十年
五七六	一二	一八	同三百八十一年
五七七	一二	一八	同三百八十二年
五七八	一二	一八	同三百八十三年
五七九	一二	一八	同三百八十四年
五八〇	一二	一八	同三百八十五年
五八一	一二	一八	同三百八十六年
五八二	一二	一八	同三百八十七年
五八三	一二	一八	同三百八十八年
五八四	一二	一八	同三百八十九年
五八五	一二	一八	同三百九十年
五八六	一二	一八	同三百九十一年
五八七	一二	一八	同三百九十二年
五八八	一二	一八	同三百九十三年
五八九	一二	一八	同三百九十四年
五九〇	一二	一八	同三百九十五年
五九一	一二	一八	同三百九十六年
五九二	一二	一八	同三百九十七年
五九三	一二	一八	同三百九十八年
五九四	一二	一八	同三百九十九年
五九五	一二	一八	同四百年
五九六	一二	一八	同四百一年
五九七	一二	一八	同四百二年
五九八	一二	一八	同四百三年
五九九	一二	一八	同四百四年
六〇〇	一二	一八	同四百五年
六〇一	一二	一八	同四百六年
六〇二	一二	一八	同四百七年
六〇三	一二	一八	同四百八年
六〇四	一二	一八	同四百九年
六〇五	一二	一八	同四百十年
六〇六	一二	一八	同四百十一年
六〇七	一二	一八	同四百十二年
六〇八	一二	一八	同四百十三年
六〇九	一二	一八	同四百十四年
六一〇	一二	一八	同四百十五年
六一一	一二	一八	同四百十六年
六一二	一二	一八	同四百十七年
六一三	一二	一八	同四百十八年
六一四	一二	一八	同四百十九年
六一五	一二	一八	同四百二十年
六一六	一二	一八	同四百二十一年
六一七	一二	一八	同四百二十二年
六一八	一二	一八	同四百二十三年
六一九	一二	一八	同四百二十四年
六二〇	一二	一八	同四百二十五年
六二一	一二	一八	同四百二十六年
六二二	一二	一八	同四百二十七年
六二三	一二	一八	同四百二十八年
六二四	一二	一八	同四百二十九年
六二五	一二	一八	同四百三十年
六二六	一二	一八	同四百三十一年
六二七	一二	一八	同四百三十二年
六二八	一二	一八	同四百三十三年
六二九	一二	一八	同四百三十四年
六三〇	一二	一八	同四百三十五年
六三一	一二	一八	同四百三十六年
六三二	一二	一八	同四百三十七年
六三三	一二	一八	同四百三十八年
六三四	一二	一八	同四百三十九年
六三五	一二	一八	同四百四十年
六三六	一二	一八	同四百四十一年
六三七	一二	一八	同四百四十二年
六三八	一二	一八	同四百四十三年
六三九	一二	一八	同四百四十四年
六四〇	一二	一八	同四百四十五年
六四一	一二	一八	同四百四十六年
六四二	一二	一八	同四百四十七年
六四三	一二	一八	同四百四十八年
六四四	一二	一八	同四百四十九年
六四五	一二	一八	同四百五十年
六四六	一二	一八	同四百五十一年
六四七	一二	一八	同四百五十二年
六四八	一二	一八	同四百五十三年
六四九	一二	一八	同四百五十四年
六五〇	一二	一八	同四百五十五年
六五一	一二	一八	同四百五十六年
六五二	一二	一八	同四百五十七年
六五三	一二	一八	同四百五十八年
六五四	一二	一八	同四百五十九年
六五五	一二	一八	同四百六十年
六五六	一二	一八	同四百六十一年
六五七	一二	一八	同四百六十二年
六五八	一二	一八	同四百六十三年
六五九	一二	一八	同四百六十四年
六六〇	一二	一八	同四百六十五年
六六一	一二	一八	同四百六十六年
六六二	一二	一八	同四百六十七年
六六三	一二	一八	同四百六十八年
六六四	一二	一八	同四百六十九年
六六五	一二	一八	同四百七十年
六六六	一二	一八	同四百七十一年
六六七	一二	一八	同四百七十二年
六六八	一二	一八	同四百七十三年
六六九	一二	一八	同四百七十四年
六七〇	一二	一八	同四百七十五年
六七一	一二	一八	同四百七十六年
六七二	一二	一八	同四百七十七年
六七三	一二	一八	同四百七十八年
六七四	一二	一八	同四百七十九年
六七五	一二	一八	同四百八十年
六七六	一二	一八	同四百八十一年
六七七	一二	一八	同四百八十二年
六七八	一二	一八	同四百八十三年
六七九	一二	一八	同四百八十四年
六八〇	一二	一八	同四百八十五年
六八一	一二	一八	同四百八十六年
六八二	一二	一八	同四百八十七年
六八三	一二	一八	同四百八十八年
六八四	一二	一八	同四百八十九年
六八五	一二	一八	同四百九十年
六八六	一二	一八	同四百九十一年
六八七	一二	一八	同四百九十二年
六八八	一二	一八	同四百九十三年
六八九	一二	一八	同四百九十四年
六九〇	一二	一八	同四百九十五年
六九一	一二	一八	同四百九十六年
六九二	一二	一八	同四百九十七年
六九三	一二	一八	同四百九十八年
六九四	一二	一八	同四百九十九年
六九五	一二	一八	同五百年
六九六	一二	一八	同五百一年
六九七	一二	一八	同五百二年
六九八	一二	一八	同五百三年
六九九	一二	一八	同五百四年
七〇〇	一二	一八	同五百五年
七〇一	一二	一八	同五百六年
七〇二	一二	一八	同五百七年
七〇三	一二	一八	同五百八年
七〇四	一二	一八	同五百九年
七〇五	一二	一八	同五百十年
七〇六	一二	一八	同五百十一年
七〇七	一二	一八	同五百十二年
七〇八	一二	一八	同五百十三年
七〇九	一二	一八	同五百十四年
七一〇	一二	一八	同五百十五年
七一一	一二	一八	同五百十六年
七一二	一二	一八	同五百十七年
七一三	一二	一八	同五百十八年
七一四	一二	一八	同五百十九年
七一五	一二	一八	同五百二十年
七一六	一二	一八	同五百二十一年
七一七	一二	一八	同五百二十二年
七一八	一二	一八	同五百二十三年
七一九	一二	一八	同五百二十四年
七二〇	一二	一八	同五百二十五年
七二一	一二	一八	同五百二十六年
七二二	一二	一八	同五百二十七年
七二三	一二	一八	同五百二十八年
七二四	一二	一八	同五百二十九年
七二五	一二	一八	同五百三十年
七二六	一二	一八	同五百三十一年
七二七	一二	一八	同五百三十二年
七二八	一二	一八	同五百三十三年
七二九	一二	一八	同五百三十四年
七三〇	一二	一八	同五百三十五年
七三一	一二	一八	同五百三十六年

本學修科

年次	入學志願者	入學者	卒業者
明治三十一年	八二	二八	一五
同三十二年	六三	一六	
同三十三年	七二	一四	
同三十四年	四二	二四	七
同三十五年	五三	二九	九
同三十六年	六一	三二	一五
同三十七年	五三	三〇	一一
同三十八年	七一	三一	九
同三十九年	四五	三〇	二六
同四十年	五一	二一	一三
同四十一年	四五	三〇	一八
同四十二年	三四	二二	一五
同四十三年	五五	三三	二六
同四十四年	五五	二八	一七
同四十五年	九五	二四	一六
大正二年	一二五	二七	一七
同三年	五五	二八	一四
同四年	七五	二七	一八
同五年	四六	二二	一五
同六年	二五四	二四	一五
同七年	一四四	一七	一八
同八年	一五五	二二	一三
同九年	二二三	二六	一六
同十年	一八七	一九六	一九
同十一年	一一七	一六八	一一
同十二年	二一四	一四八	一五
同十三年	一七〇	一四五	九
同十四年	一三四	八	五
同十五年	六九	九	七
同大正二年	六二	一四	
同三年	五四		
昭和二年	三〇		
同三年	七六	一八	
同四年	八二	一三	
同五年	七五	二二	
同六年	五八	一七	
同七年	一〇一	一四	
同八年	七三	一五	
同九年	五六	一七	
同十年	八五	一五	
同十一年	一一四	一五	
同十二年	七三	一六	
同十三年	一一九	一七	
同十四年	一〇一	一七	
同十五年	七五	一四	
同十六年	八一	一七	
同十七年	七三	一七	
同十八年	一一四	一六	

本學修科

年次	入學志願者	入學者	卒業者
明治三十一年	二五一	三〇	九
同三十二年	五七	二八	一二
同三十三年		一〇六	二九
同三十四年		一〇一	一九
同三十五年		一〇六	二六
同三十六年		一一四	一九
同三十七年		一〇五	一二
同三十八年		一〇六	一〇
同三十九年		一〇九	一一
同四十年		一一三	一〇
同四十一年		一一五	一〇
同四十二年		一一七	一一
同四十三年		一一四	九
同四十四年		一一三	一一
同四十五年		一一五	一一
大正二年		一一六	一一
同三年		一一八	一一
同四年		一一五	一一
同五年		一一五	一一
同六年		一一四	一一
同七年		一一三	一一
同八年		一一三	一一
同九年		一一四	一一
同十年		一一五	一一
同十一年		一一五	一一
同十二年		一一六	一一
同十三年		一一六	一一
同十四年		一一六	一一
同十五年		一一七	一一
昭和二年		一一七	一一
同三年		一一七	一一
同四年		一一七	一一
同五年		一一七	一一
同六年		一一七	一一
同七年		一一七	一一
同八年		一一七	一一
同九年		一一七	一一
同十年		一一七	一一
同十一年		一一七	一一
同十二年		一一七	一一
同十三年		一一七	一一
同十四年		一一七	一一
同十五年		一一七	一一
同十六年		一一七	一一
同十七年		一一七	一一
同十八年		一一七	一一

本科

年次	入學志願者	入學者	卒業者
明治三十年	一七二	一五	一〇
同三十一年	一九三	一五	一〇
同三十二年	二二六	一四	一九
同三十三年	二四七	一九	二一
同三十四年	二四九	二一	二六
同三十五年	二三七	二〇	二四
同三十六年	二五五	二五	一七
同三十七年	二五九	二八	一〇
同三十八年	二四二	一三	六
同三十九年	二三五	一四	
同四十年	二三三	一五	
同四十一年	二三〇	一八	一九
同四十二年	二三三	二〇	一九
同四十三年	二二七	二三	一七
同四十四年	二二七	一一	一五
同四十五年	二二六	一七	七
大正二年	二二九	二五	一七
同三年	二二三	二二	一〇
同四年	二二二	二六	一〇

專修科

年次	入學志願者	入學者	修了者
明治三十年	二六	二二	
同三十一年	一九	一八	二
同三十二年	一〇	一二	三
同三十三年	一二	一五	三
同三十四年	一六	一九	二
同三十五年	一五	一六	四
同三十六年	一九	一四	五
同三十七年	二三	一七	三
同三十八年	二七	一六	六
同三十九年	一三	一九	七
同四十年	一九	二一	一
同四十一年	一二	二三	六
同四十二年	一三	三八	八
同四十三年	一四	三二	五
同四十四年	一五	三九	二
同四十五年	九	三八	三
大正二年	一六	一八	二
同三年	一一	二二	
同四年	一〇	一九	

年次	入學志願者	入學者	卒業者
明治三十年	三〇	三〇	一九
同三十一年	三五	三〇	一一
同三十二年	三四	二四	一七
同三十三年	三〇	二六	一七
同三十四年	二四	二八	一一
同三十五年	二五	二一	一四
同三十六年	二六	一七	一一
同三十七年	二四	一四	一一
同三十八年	二三	一二	一一
同三十九年	二一	一一	一一
同四十年	二〇	一〇	一一
同四十一年	一九	一〇	一一
同四十二年	一八	一〇	一一
同四十三年	一七	一〇	一一
同四十四年	一六	一〇	一一
同四十五年	一五	一〇	一一
大正二年	一四	一〇	一一
同三年	一三	一〇	一一
同四年	一二	一〇	一一

專修科

年次	入學志願者	入學者	修了者
明治三十年	五六	四九	四
同三十一年	四一	三八	六
同三十二年	一八	一五	一三
同三十三年	五四	四八	同
同三十四年	五三	四八	六
同三十五年	五四	四一	九
同三十六年	五二	三五	一七
同三十七年	六五	四八	八
同三十八年	六〇	四五	一二
同三十九年	五四	四一	九
同四十年	五三	四八	同
同四十一年	五二	三五	一七
同四十二年	八一	六〇	一一
同四十三年	五二	三五	一七
同四十四年	四六	三五	九
同四十五年	三六	三〇	三〇
昭和二年	四九	三六	八
同三年	五二	三八	一七
同四年	四八	三八	八
同五年	三八	二六	一七

伊語部

本科

年次	入學志願者	入學者	卒業者
明治三十二年	一四	六	四
同三十三年	一五	一五	四
同三十四年	三二	一七	四
同三十五年	一九	一四	三
同三十六年	一六	一〇	四
同三十七年	一一	一〇	三
同三十八年	七	六	四
同三十九年	六	五	六
同四十年	七	六	四
同四十一年	六	五	六
同四十二年	五	四	六
同四十三年	七	六	五
同四十四年	二		
同四十五年			

專修科及速成科

年次	入學志願者	入學者	修了者
明治三十二年	二	二	一
同三十三年	三	三	
同三十四年	一	二	一
同三十五年	四	四	一
同三十六年	一	一	一
同三十七年	二	二	
同三十八年	二	二	
同三十九年			
同四十年			
同四十一年	一一	一一	
同四十二年	一〇	八	
同四十三年	六	五	
同四十四年	一四	一四	
同四十五年	二六	二六	

本科

年次	入學志願者	入學者	卒業者
大正二年	二	二	一
同三年	四	四	四
同四年	五	四	四
同五年	七	七	五
昭和二年	三	三	三
同三年	三	三	四
同四年	一〇	九	七
同五年	九	七	五

專修科及速成科

年次	入學志願者	入學者	修了者
大正二年	一〇	八	五
同三年	四	四	一
同四年	五	三	一
同五年	一一	一一	一
同六年	一〇	一〇	一
同七年	一二	一二	一
同八年	一二	一二	一
同九年	一二	一二	二
同十年	二七	二四	二
同十一年	三三	二七	二
同十二年	二六	二四	一
同十三年	一四	一一	一
同十四年	三一	二四	一
同十五年	一二	一一	一
昭和二年	一九	一七	一
同三年	一〇	九	一
同四年	一〇	九	一
同五年	九	七	一

年次	本科 入學志願者	本科 入學者	本科 卒業者	專修科及速成科 入學志願者	專修科及速成科 入學者	專修科及速成科 修了者
同 六年	文科 法科 貿易科 拓殖科 五八三（外第二志望七七）	二七三三	三四三一	*九	*六	*三
同 七年				*五	*五	*三
同 八年	文科 法科 貿易科 拓殖科 三六六三（外第二志望九九）	五七三二	五二二	*九	*八	二

西語部

年次	本科 入學志願者	本科 入學者	本科 卒業者	專修科及速成科 入學志願者	專修科及速成科 入學者	專修科及速成科 修了者
明治三十年	六	六			一一	
同 三十一年	一五	五			八	
同 三十二年	一三	六			四	二
同 三十三年	一三		三	九	九	一
同 三十四年	二六	五	五	五	五	一
同 三十五年	三五	二一	六	一〇	九	
同 三十六年	二四	二四		二〇	二〇	
同 三十七年	三七	二八	一〇	一八	一二	
同 三十八年			八	一四	一二	五
同 三十九年	六四	二九	一三	二四	一六	
同 四十年	四九	二七	一九	三〇	一三	五
同 四十一年	三四	一一		四八	二六	三
同 四十二年	三〇	一六	一四	四二	二〇	二

年次	本科 入學志願者	本科 入學者	本科 卒業者	專修科及速成科 入學志願者	專修科及速成科 入學者	專修科及速成科 修了者
明治四十三年	一四	九	一二	一二	九	五
同 四十四年	二五	一四	九	六	五	
同 四十五年	三三	一六	八	一〇	八	
大正 二年	一〇四（内第二志望六二）	二三	九	五〇	*四〇	*三
同 三年	一〇九（内第二志望五〇）	二九	六	*三四	*三四	*五
同 四年	八六（内第二志望四四）	一九	六	*二八	*二五	*九
同 五年	一〇五（内第二志望六一）	二三	八			九
同 六年	一四八（内第二志望一〇一）	二九	一二			
同 七年	二八一（内第二志望一七二）	三九	一一			
同 八年	九一	二九	一六			
同 九年	文科五 貿易科一六〇 拓殖科一四	文科三 貿易科一二 拓殖科一二	一四	三九	三二	
同 十年	文科八 貿易科九四 拓殖科四三	文科七 貿易科一三 拓殖科一三	文科三 貿易科二〇 拓殖科六	三四	二九	
同 十一年	文科七 貿易科九六 拓殖科二九	文科六 貿易科一二 拓殖科六	文科二 貿易科一九 拓殖科二	四七	三四	九
同 十二年	文科一一 貿易科七〇 拓殖科四五	文科四 貿易科一三 拓殖科六	文科一 貿易科一〇 拓殖科七	三八	二五	四
同 十三年	文科九 貿易科五五 拓殖科二五（外第二志望一五〇 第三志望一四七）	文科五 貿易科一三 拓殖科七	文科八 貿易科一二 拓殖科一〇	二八	一七	一五
同 十四年	文科五 貿易科五一 拓殖科二一（外第二志望一五七 第三志望一四七）	文科六 貿易科一一 拓殖科四	文科五 貿易科九 拓殖科五	二一	一九	六
同 十五年	文科一一 貿易科二八 拓殖科二三（外第二志望一四七 第三志望一七〇）	文科五 貿易科一一 拓殖科八	文科四 貿易科九 拓殖科五	二八	二二	四
昭和 二年	文科九 貿易科四八 拓殖科二三（外第二志望一八九 第三志望一八六）	文科八 貿易科一三 拓殖科一〇	文科四 貿易科一一 拓殖科四	三二	二六	六

年次	本科 入學志願者	本科 入學者	本科 卒業者	專修科及速成科 入學志願者	專修科及速成科 入學者	專修科及速成科 修了者
同三年	（外第二志望一四三 第三志望一七〇）文科 法科 貿易科 拓殖科 五 五 四一 二〇	五 五 四 一七	四 八 四	三三	二二	一一
同四年	（外第二志望一六一 第三志望一七七）文科 法科 貿易科 拓殖科 七 六 四三 二八	五 四 五 一七	四 一 一五	二六	二三	四
同五年	（外第二志望一九八）文科 法科 貿易科 拓殖科 六 一四 五〇 二四	五 五 六 一七		一九	一一	七
同六年	（外第二志望一六二）文科 法科 貿易科 拓殖科 七 七 三八 一六	三 四 五 一八	三 四 九 九	一二	一〇	九
同七年	（外第二志望二二二）文科 法科 貿易科 拓殖科 五 一九 二四 一一	二 四 六 一七	四 三 〇 一六	一八	一四	五
同八年	（外第二志望一七八）文科 法科 貿易科 拓殖科 三 五 四一 一〇	三 三 五 一八	一 一 二 一四	七	六	五

葡語部

年次	本科 入學志願者	本科 入學者	本科 卒業者	專修科及速成科 入學志願者	專修科及速成科 入學者	專修科及速成科 修了者
大正五年				一一	一〇	
同六年				五	五	
同七年				九	八	四
同八年	一二	一四				二
同九年				*八	*八	
同十年	文科 貿易科 拓殖科 六 一三 一〇	三 九 一一				*六

年次	本科 入學志願者	本科 入學者	本科 卒業者	專修科及速成科 入學志願者	專修科及速成科 入學者	專修科及速成科 修了者
同十一年	文科 貿易科 拓殖科 二 一〇 二〇	三 七 五	一 五 三			
同十二年						
同十三年	（外第二志望六九 第三志望九六）文科 貿易科 拓殖科 二 七 八	二 七 九	一 三 八	一七	一〇	
同十四年	（外第二志望五二 第三志望六九）文科 貿易科 拓殖科 七 三	三 八 四	一 六 四	七	五	*六
同十五年				*八	*七	*三
昭和二年	（外第二志望七〇 第三志望一〇五）文科 貿易科 拓殖科 一 四 一一	五 七 五	二 六 三	*一八	*一七	*四
同三年			文科 貿易科 拓殖科 二 三 三	*一六	*一〇	*九
同四年	（外第二志望七〇 第三志望一〇六）文科 法科 貿易科 拓殖科 六 一二 一七	二 三 六 六		*二〇	*一八	*四
同五年						*一〇
同六年	（外第二志望五一）文科 法科 貿易科 拓殖科 二 一 七 七	一 三 五 九	二 一 三 三			
同七年						
同八年	（外第二志望八五）文科 法科 貿易科 拓殖科 二 五 一 七	二 二 六 五	一 三 五 五	*九	*六	

支那語部

年次	本科 入學志願者	本科 入學者	本科 卒業者	專修科及速成科 入學志願者	專修科及速成科 入學者	專修科及速成科 修了者
明治三十年	一三	一三			二〇	

同三十一年	七	一二			二〇	
同三十二年	三七	一三			三九	六
同三十三年	二三	一〇	九	四四	四四	七
同三十四年	三五	二九	一一	三三	二八	一七
同三十五年	六五	三〇	八	九七	八九	一一
同三十六年	六二	三〇	九	八三	五六	一三
同三十七年	一〇七	三〇	一八	一九九	一〇九	一二
同三十八年	一〇〇	三三	二七	一六〇	七四	一九
同三十九年	七四	二七	二一	一二六	四一	一七
同四十年	四三	三〇	二七	八八	三七	二四
同四十一年	六三	三〇	一七	五三	三五	一六
同四十二年	三五	二八	二〇	五三	二五	一三
同四十三年	四五	二三	二四	二一	一八	一〇
同四十四年	二四（内第二志望二五）	一七	二三	三五	二八	一〇
同四十五年	五〇（内第二志望一二五）	二一	二一	二六	二一	六
大正二年	六六（内第二志望四二）	二五	一四	*三二	*二四	一二
同三年	八三（内第二志望三五）	二一	一三	*一七	*一五	*九四
同四年	一〇七（内第二志望六六）	二六	一六	*三九	*三三	*八
同五年	一四五（内第二志望九五）	二一	二〇	*三五	*二九	*一三
同六年	一五〇（内第二志望七四）	二七	一一	*三八	*三三	*一四
同七年	二六三（内第二志望一五八）	三三	二一	三四	二六	*九
同八年	一六三	三三	八	三一	二七	

同九年	文科四 貿易科一五九 拓殖科一三	文科六 貿易科二〇 拓殖科七	二〇			六
同十年	文科一一 貿易科六六 拓殖科一〇	文科七 貿易科一五 拓殖科六	二五　一	三五	三〇	七
同十一年	文科一〇 貿易科八九 拓殖科八	文科六 貿易科一二 拓殖科九	二九	三四	二七	九
同十二年	文科四 貿易科五四 拓殖科六	文科八 貿易科一一 拓殖科三	一 一七 三	三四	二九	一〇
同十三年	（外第二志望八〇 第三志望七五）文科六 貿易科四〇 拓殖科三	文科四 貿易科一四 拓殖科八	九 一四 三	二六	一七	二二
同十四年	（外第二志望一〇七 第三志望一二五）文科一〇 貿易科九三 拓殖科九	文科四 貿易科一〇 拓殖科七	六 七 八	四六	三九	六
同十五年	（外第二志望七五 第三志望六四）文科九 貿易科三四 拓殖科四	文科八 貿易科一四 拓殖科一〇	六 八 二	二八	二二	八
昭和二年	（外第二志望七四 第三志望八二）文科一九 貿易科六七 拓殖科七	文科一 貿易科一三 拓殖科一五	四 一三 七	一八	一五	一三
同三年	（外第二志望六四 第三志望二六）文科六 法科五 貿易科三九 拓殖科一	文科三 法科五 貿易科一二 拓殖科六	四　八 五	一七	一二	一〇
同四年	（外第二志望四九 第三志望四五）文科六 法科七 貿易科三四 拓殖科二	文科五 法科六 貿易科一一 拓殖科九	七　一四 一〇	二七	二〇	四
同五年	（外第二志望七三）文科三 法科一〇 貿易科五〇 拓殖科一四	文科五 法科四 貿易科一五 拓殖科七		一八	一四	八
同六年	（外第二志望一一九）文科一六 法科一五 貿易科五五 拓殖科六	文科四 法科四 貿易科一五 拓殖科七	四 六 九 五	三七	二五	一一
同七年	（外第二志望一三七）文科一七 法科一四 貿易科七一 拓殖科二一	文科三 法科五 貿易科一五 拓殖科九	三 五 一一 六	四九	四二	九
同八年	（外第二志望七九）文科七 法科二四 貿易科七一 拓殖科二四	文科五 法科五 貿易科一九 拓殖科五	三 五 七 八	五三	四二	一八

蒙古語部

年次	本科 入學志願者	本科 入學者	本科 卒業者	專修科及速成科 入學志願者	專修科及速成科 入學者	專修科及速成科 修了者
明治四十四年	（内第二志望六）七	七		三	二	
同 四十五年						
大正 二年	（内第二志望六）六					
同 三年	（内第二志望一一）二〇	八	三	五	三	
同 四年						
同 五年	（内第二志望二一）四〇	一一				
同 六年			七			
同 七年	（内第二志望四九）五七	六				
同 八年			九			
同 九年						
同 十年	貿易科 拓殖科 一〇〇	七八	四	＊五	＊四	
同 十一年	貿易科 拓殖科 八六	六五				＊一
同 十二年				＊一〇	＊八	
同 十三年	（外第二志望二一 第三志望七三）貿易科 拓殖科 六八	五四	五六	＊七	＊五	＊五
同 十四年	（外第二志望二三 第三志望五八）貿易科 拓殖科 七二	四五	六五			＊四
同 十五年				＊四	＊四	
昭和 二年	（外第二志望二五 第三志望七三）貿易科 拓殖科 八二	八四四	三 三			＊三
同 三年			貿易科 四			
同 四年	（外第二志望一〇 第三志望六二）貿易科 拓殖科 三二	六四				
同 五年						
同 六年	（外第二志望三三）貿易科 拓殖科 五七	五八	二三			
同 七年				＊五	＊五	
同 八年	（外第二志望一〇一）貿易科 拓殖科 一六 九	一一 九	四三			五

暹羅語部

年次	本科 入學志願者	本科 入學者	本科 卒業者	專修科及速成科 入學志願者	專修科及速成科 入學者	專修科及速成科 修了者
明治四十四年	（内第二志望一〇）二	一二				
同 四十五年						
大正 二年	（内第二志望六）一六	一〇				
同 三年			四			
同 四年						
同 五年			四			
同 六年						
同 七年						
同 八年						
同 九年						
同 十年						
同 十一年						
同 十二年						
同 十三年						

馬來語部

年次	本科 入學志願者	本科 卒業者	專修科及速成科 入學志願者	專修科及速成科 入學者	專修科及速成科 修了者
同十四年	三七				
同十五年	一九（内第二志望一三）	一七			
昭和二年	三五（内第二志望二六）	一四			
同三年	六三（内第二志望二九）	一二			
同四年	七六（内第二志望六〇）	一七			
同五年		一〇 五	五 九	五 七	
同六年		二〇			
同七年					
同八年					

ヒンドスタニー語部

年次	本科 入學志願者	本科 卒業者	專修科及速成科 入學志願者	專修科及速成科 入學者	專修科及速成科 修了者
同九年	三七	一四			
同十年	一〇（内第二志望五九）（外第二志望一〇）	五五			
同十一年	一一（外第二志望一〇）	六八			
同十二年	一三（外第二志望一〇）	五二			
同十三年	八（外第二志望六七）	九七			
同十四年	一〇（外第二志望七四）	五四			
昭和二年	六（外第二志望一〇）	五七			
同十五年	一〇（外第二志望一〇）	四五			
同十六年	五（外第二志望一一）	六五			
同十七年	六（外第二志望一六九）	一七			
同十八年					

年次	本科 入學志願者	本科 入學者	本科 卒業者	專修科及速成科 入學志願者	專修科及速成科 入學者	專修科及速成科 修了者
明治三十年	六	六	四			
同三十一年	八	三	一			
同三十二年	二二	一六	一〇			
同三十三年	六	六	四	三	三	一
同三十四年	八	四	三			
同三十五年	二九	二七	九			
同三十六年	二三	二三	一			
同三十七年	三七	二七	三	一七	一一	五
同三十八年	四〇	二九	一〇	一四	七	
同三十九年	一七	一二	二	九	四	五
同四十年	九	七	一六	八	六	一
同四十一年	一九	一三	一四	一五	一	二
同四十二年	二〇	一六	一〇	二一	一四	二
同四十三年	一九	一四	一〇	一一	九	四
同四十四年	一八	一二	七	一	一	二
同四十五年	二三	一四	九	二九	二	三
大正二年	一九	一〇	六	一一	五	一
同三年	三〇	一〇	六	一七	一	五
同四年	一九	四	六			

年次	本科 入學志願者	本科 入學者	本科 卒業者	專修科及速成科 入學志願者	專修科及速成科 入學者	專修科及速成科 修了者
同三年	一四	六	四			
同四年	四九	一二	五			
同五年	一六	一七	五			
同六年	二八	一六	八			
同七年	一六	一七	五			
同八年	一八	一一	四			
同九年	一八	一一	七			
同十年	一六	一一	七			
同十一年	一〇	一〇	四	*	*	*
同十二年	一三	一一	三			
同十三年	一四	一一	四			
同十四年	一三	一〇	三			
同十五年	一六	一一	三			
昭和二年	三五	二四	一二			
同三年	二三	一七	七			
同四年	二七	一七	八			
同五年	二四	一七	六			
同六年	二六	一八	六			
同七年	二五	一八	五			
同八年	二七	一八	七			
同九年	二八	一九	八			
同十年	二一	一〇	八	*	*	*
同十一年	二一	一〇	七	*	*	*
同十二年	二二	一二	七			
同十三年	二一	一二	七			
同十四年	二一	一二	七			
同十五年	二一	一二	七			
昭和二年	二一	一二	七			
同三年	二一	一二	七			
同四年	二一	一二	七			
同五年	二一	一二	七			
同六年	二一	一二	七			
同七年	二一	一二	七			
同八年	二一	一二	七			

昭和八年概況

一、教官（＊印ハ重出シタルモノ）

	教授	助教授	外國人教師	講師	外國人講師	計
英語	六		二	三	三	一四
佛語	四	一	＊一	一	一	八 ＊一
獨語	五		＊一	三	一	八 ＊一
露語	三	一	一	四		一〇
伊語	二		一			三
西語	三	一	一	一		六
葡語	一		一	一		三
支那語	二		＊一	一		＊一 五
蒙古語	一		一	一		三
馬來語			一	一		二
ヒンヅー斯坦語		一	一			二
南洋語	一		一			二
國史	二			一		二
國語	一			一		二
漢文	一			一		二
經濟	一			一		二
言語學				一		一
哲學				一		一
教育學				一		一
社會學				一		一
法律	＊一 二	一		一		＊一 四
商業	二	＊一				＊一 二
商業貿易事情	＊一 一			三		＊一 五
農業	二			一		＊一 一 二
殖民				二		二
軍事	＊一			一		＊一 二
體操		二				二
計	三九	八	一三	三三	六	九八

	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年	同十五年	昭和二年	同三年	同四年	同五年	同六年	同七年	同八年
英語																		
佛語						＊	＊											
獨語						＊	＊											
露語						＊	＊											
伊語																		
西語																		
葡語																		
支那語							＊											
蒙古語																		
馬來語																		
ヒンヅー斯坦語																		
南洋語																		
國史																		
國語																		
漢文																		
經濟																		
言語學																		
哲學																		
教育學																		
社會學																		
法律																		
商業																		
商業貿易事情																		
農業																		
殖民																		
軍事																		
體操																		
計																		

二、昭和八年三月本科卒業、選科修業者、專修科及速成科修了者數

語學別	科別	本科卒業者	選科修業者	專修科修了者	速成科修了者	計
英語部	文	二	五	二五		三五
	法	三				
	貿	二				
佛語部	文	五	四	一五		三九
	法	七				
	貿	八				
獨語部	文	七	四	一六		四〇
	法	四				
	貿	九				
露語部	文	一	三	九		二七
	法	二				
	貿	九				
	拓	三				
伊語部	文	二			二	一一
	法	二				
	貿	五				
西語部	文	一		五		二三
	法	一				
	貿	一二				
	拓	四				
葡語部	文	一				一四
	法	三				
	貿	五				
	拓	五				
支那語部	文	三	五	一八		四六
	法	五				
	貿	七				
	拓	八				
蒙古語部	貿	三			五	一二
	拓	四				
馬來語部					蘭語 三	三
計		一五一	二一	八八	一〇	二七〇

備考　表中文ハ文科（文學）、法ハ文科（法律）、貿ハ貿易科、拓ハ拓殖科ノ略ナリ

三、生徒現員（昭和八年四月調）

部	學年	本科 文科	本科 貿易科	本科 拓殖科	選科	專修科	速成科	合計
英語部	第四學年	一九	一〇					二九
	第三學年	一七	一八		一			三六
	第二學年	一四	一九		一	二七		六一
	第一學年	一七	一五		二	五〇		八四
佛語部	第四學年	一六	八					二四
	第三學年	一四	一二		一			二七
	第二學年	一五	一五		二	一一		四三
	第一學年	一八	一七		二	三九		七六
獨語部	第四學年	一四	一一					二五
	第三學年	一四	一二		二			二八
	第二學年	一二	一一		一	三三		五七
	第一學年	一六	一七		一	七八		一一二
露語部	第四學年	七	八	一				一六
	第三學年	六	五	三	三			一七
	第二學年	九	一一	三		一七		四〇
	第一學年	一四	一三	二	一	二五		五五
伊語部	第三學年	六	五	一				一二
	第一學年	五	七	五	一		八	二六
西語部	第四學年	九	一〇	五				二四
	第三學年	六	一四	六				二六
	第二學年	五	一二	四	一	五		二七
	第一學年	五	一五	一〇		六		三六
葡語部	第三學年	三	三	八				一四
	第一學年	四	六	五			六	二一
支那語部	第四學年	八	一二	六				二六
	第三學年	六	一七	六				二九
	第二學年	八	一五	九	六	二八		六六
	第一學年	一〇	一九	五	三	三三		七〇
蒙古語部	第三學年		七	五				一二
	第一學年		九	一二	一			二二
馬來語部	第四學年		一〇	八				一八
	第二學年		一〇	六	二			一八
	第一學年						蘭 一〇	一〇
ヒンドスターニー語部	第四學年		七	六				一三
	第二學年		六	五	一			一二
計		二九七	三八六	一二〇	三二	三五二	二四	一、二一〇

一　東京外國語學校校友會規則

第一章　名稱及目的

第一條　本會ハ東京外國語學校校友會ト稱ス

第二條　本會ハ會員ノ交誼ヲ厚フシ心身ヲ鍛錬シ且校風ヲ振作スルヲ以テ目的トス

第二章　會員

第三條　本會ハ左ノ會員ヲ以テ組織ス

一、正會員

一、賛助會員

第四條　本校本科生及ヒ選科生及本校內臨時教員養成所卒業者ヲ賛助會員トス

第五條　本校職員ヲ特別會員トス

第六條　本校卒業者及本校內臨時教員養成所生徒ハ正會員タルヘキモノトス

第七條　本校ニ緣故アリ本會ノ目的ヲ賛成スル者ヲ會長ノ推薦ニヨリテ名譽會員トス

第三章　部門

第八條　本會ニ左ノ六部ヲ置ク

第一部　武術部

第二部　陸上運動部

第三部　水上運動部

第四部　文藝部

第五部　辯論部

第六部　語學大會

第四章　役員

第九條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

但必要ノ場合ハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

會長	一名	
副會長	一名	
部長	六名	
副部長	六名	
評議員	十五名以內	
幹事	三十九名	（內譯、第一部四名、第二部七名、第三部九名、第四部六名、第五部五名、第六部八名）
委員	各級一名	
主計	一名	
錄事	一名	

第十條　會長ハ東京外國語學校長之ニ當ル

第十一條　會長ハ本會一切ノ事務ヲ總理ス

第十二條　副會長ハ特別會員中ヨリ會長之ヲ囑託ス

第十三條　副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ニ代ル

第十四條　部長及副部長ハ委員會ニ於テ特別會員中ヨリ選擧シ會長之ヲ囑託ス

第十五條　部長ハ各部ノ事務ヲ掌理シ副部長ハ部長ヲ補佐シ部長事故アルトキハ之ニ代ル
第十六條　評議員ハ特別會員及賛助會員中ヨリ會長之ヲ囑託ス
第十七條　評議員ハ會長ノ諮問ニ應シ本會ノ重要ナル事項ヲ審議ス
第十八條　幹事ハ委員會ニ於テ正會員中ヨリ選擧シ會長之ヲ任命ス
第十九條　幹事ハ部長及副部長ヲ輔ケテ各部ノ事務ヲ處理ス
第二十條　委員ハ各級ヨリ一名ヲ互選シ本會一切ノ事項ヲ評決ス
第二十一條　主計ハ本校ノ會計課員中ヨリ會長之ヲ囑託シ本會一切ノ出納ヲ掌ル
第二十二條　錄事ハ本校事務員中ヨリ會長之ヲ囑託シ本會ノ記錄ヲ掌ル
第二十三條　本會役員ノ任期ハ滿一ケ年トス
但毎年四月ヲ以テ任期ノ始トス
第二十四條　各役員會ハ役員ノ半數以上ノ出席者アルニアラサレハ成立セサルモノトス

第五章　役員會

第二十五條　役員會ヲ分チテ評議員會、部長會、幹事會及委員會トス
第二十六條　各役員會ノ細則ハ別ニ之ヲ定ム

第六章　會計

第二十七條　本會々計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ルモノトス
第二十八條　次年度ノ豫算ハ毎年二月各部幹事之ヲ編成シ部長會ノ齊定ヲ經テ委員會ノ議ニ附シ會長ノ認可ヲ經テ決定ス
第二十九條　正會員ハ入會金貳圓及會費年額八圓ヲ納ムヘシ
但入會金ハ入學ノ際ニ之ヲ納メ內金壹圓ヲ基本金トス會費ハ三回ニ分チ第一學期金五圓第二學期金貳圓第三學期金壹圓ヲ授業料ト同時ニ納ムヘシ
第三十條　特別會員ハ毎月俸給月額百五十分ノ一（外國人ハ二百分ノ一）ヲ寄附ス
第三十一條　名譽會員及賛助會員ハ會費ヲ納ムル事ヲ要セス
第三十二條　本會ノ決算ハ六月末日迄ニ委員會ニ報告シ其承認ヲ受クヘシ

第七章　基本金

第三十三條　本會ハ其基礎ヲ鞏固ニシ事業ノ發達ヲ圖ランガ爲ニ基本金ヲ蓄積ス
第三十四條　本會基本金ハ特定收入ヲ以テ之ニ充ツ
第三十五條　基本金ハ之ヲ通常經費ニ流用スルヲ得ス
但利子ハ當分ノ內基本金ニ繰入ルヽモノトス
第三十六條　有志者ヨリノ寄附ハ會長ノ承認ヲ經テ受納シ之ヲ基本金中ニ繰入ル

第八章　東京外國語學校購買組合

第三十七條　本會ニ東京外國語學校購買組合ヲ附設ス
第三十八條　東京外國語學校購買組合ノ規約ハ別ニ之ヲ定ム

第九章　規則改正

第三十九條　本會規則ハ委員會ノ決議ニヨリ會長ノ認可ヲ經テ改正スル事ヲ得

（附則）　本規則ハ大正七年九月十一日ヨリ全部施行ス

（大正十三年三月、大正十五年四月、昭和五年三月、昭和七年九月改正）

二　東京外國語學校同窓會規則

名稱

第一條　本會ハ東京外國語學校同窓會ト稱ス

目的

第二條　本會ハ會員相互ノ親睦ト福祉トヲ圖リ且母校ノ堅實ナル發展ヲ期スルヲ以テ目的トス

會員及會費

第三條　本會會員ヲ分テテ正會員、特別會員、名譽會員ノ三種トス

東京外國語學校本科及同校附設臨時教員養成所ノ卒業者ハ入會ノ手續ヲ須ヒスシテ正會員タルモノトシ、半途退學者若シクハ選科、別科、專修科、速成科又ハ東洋語ノ速成科ノ出身者ハ本人ノ希望又ハ會員ノ推薦ニヨリ正會員タル事ヲ得

母校在職ノ教職員ニシテ正會員ニ非サル者ヲ特別會員トス

母校ニ關係アル者ニシテ特ニ委員會ヨリ推薦セラレタル者ヲ名譽會員トス

第四條　正會員ハ會費トシテ毎年金壹圓ヲ四月末日迄ニ納付スルヲ要ス

但シ臨時會費ヲ徵收スルコトアル可シ

一時ニ金貳拾五圓以上ヲ納付シタルモノハ爾後ノ會費ヲ納付スルヲ要セス

第五條　會員ニシテ本會ノ名譽ヲ毀損スル行爲アリタル者ハ委員會ノ決議ヲ經テ之レヲ除名ス（除名セラレタルモノノ既納ノ會費ハ之ヲ返附セス）

役員

第六條　本會ニハ左ノ役員ヲ置ク

一、委員　一、幹事　一、會計審査員

第七條　委員ハ總會ノ際正會員中ヨリ各語部毎ニ五名以内ヲ互選シ、幹事ハ委員中ヨリ十二名ヲ、會計審査員ハ三名ヲ互選ス

第八條　委員ハ委員會ヲ組織シ委員長ヲ互選ス

第九條　委員長ハ隨時委員會ヲ召集シ會務ヲ協議セシム

第十條　幹事ハ委員長ノ決議ニ基キ一般會務ヲ分掌ス

會計ヲ分擔スル幹事ハ三名トス

第十一條　會計審査員ハ一般會計ヲ審査スルモノトス

第十二條　役員ノ任期ハ二ケ年トシ再選ヲ妨ケス、但シ會計ヲ分擔スル幹事ノ任期ヲ一ケ年トシ重任スルヲ得ス

事業

第十三條　本會ハ毎年四月東京ニ於テ總會ヲ開キ會務ノ報告其他本會ノ目的ヲ達スルニ必要ナル諸般ノ協議ヲナス、必要ト認ムル場合ニハ委員會ノ決議ニ依リ臨時總會ヲ開ク事ヲ得、總會ノ費用ハ出席者ヨリ臨時ニ之ヲ徴收スル事ヲ得

第十四條　總會ニ於ケル議事ノ決議ハ出席正會員過半數ノ贊同ヲ要ス

第十五條　本會ハ會報及會員名簿ヲ毎年一回會員ニ配布ス

第十六條　本會ハ其目的ヲ達センカ爲メ隨時必要ナル諸種ノ機關ヲ設クルコトヲ得

會　務

第十七條　本會ノ會務年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月末日ニ終ル

第十八條　會務ハ庶務、文書、會計ノ三部ニ分チ幹事之レヲ分擔ス

第十九條　本會ハ會務ヲ處理スル爲メ有給ノ事務員ヲ雇用スルコトヲ得

會　計

第二十條　本會ノ經常費ハ會費及基本金ノ利子ヲ以テ支辨ス但シ當分ノ內基本金ノ利子ハ之レヲ基本金ニ繰入ル

第二十一條　毎年度ノ剩餘金ハ之レヲ基本金ニ繰入ルルモノトス

第二十二條　寄附金ハ寄附者ニ於テ特ニ其用途ヲ指定セルモノノ外ハ之レヲ基本金ニ編入ス

第二十三條　毎年度ノ會計決算ハ會計審査員ノ審査ヲ經タル後之レヲ次年度ノ總會ニ於テ報告シ且ツ之レヲ會報ニ揭載ス

第二十四條　會費納附者及金品寄附者ノ氏名ハ其ノ金額又ハ品目ト共ニ之レヲ會報ニ揭載ス

基本金

第二十五條　本會ニハ基本金ヲ置ク

基本金ハ經常費ノ剩餘金及寄附金ヲ以テ之レニ充ツ

第二十六條　基本金ハ總會ノ決議ヲ經ルニ非サレハ之レヲ使用スルコトヲ得ス

支　部

第二十七條　本會ハ連絡ニ資スル爲メ各地ニ支部ヲ置ク

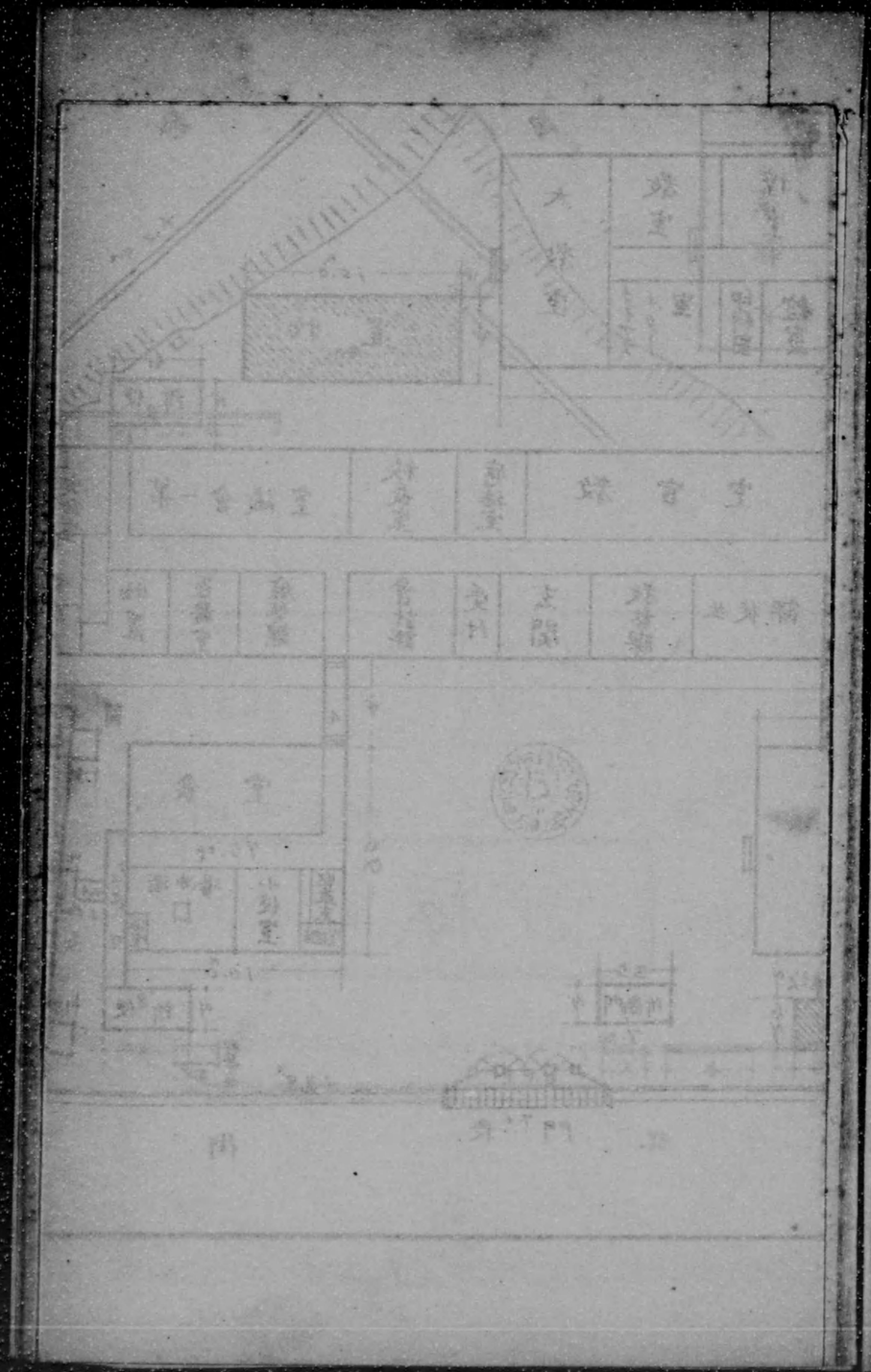
支部規則ハ本則ニ準シ各地適宜ニ之レヲ定ム

規則變更

第二十八條　總會ノ決議ニヨルニ非サレハ本規則ヲ變更スルコトヲ得ス

附　記

本會ノ事務所ハ當分ノ內東京外國語學校內ニ置ク

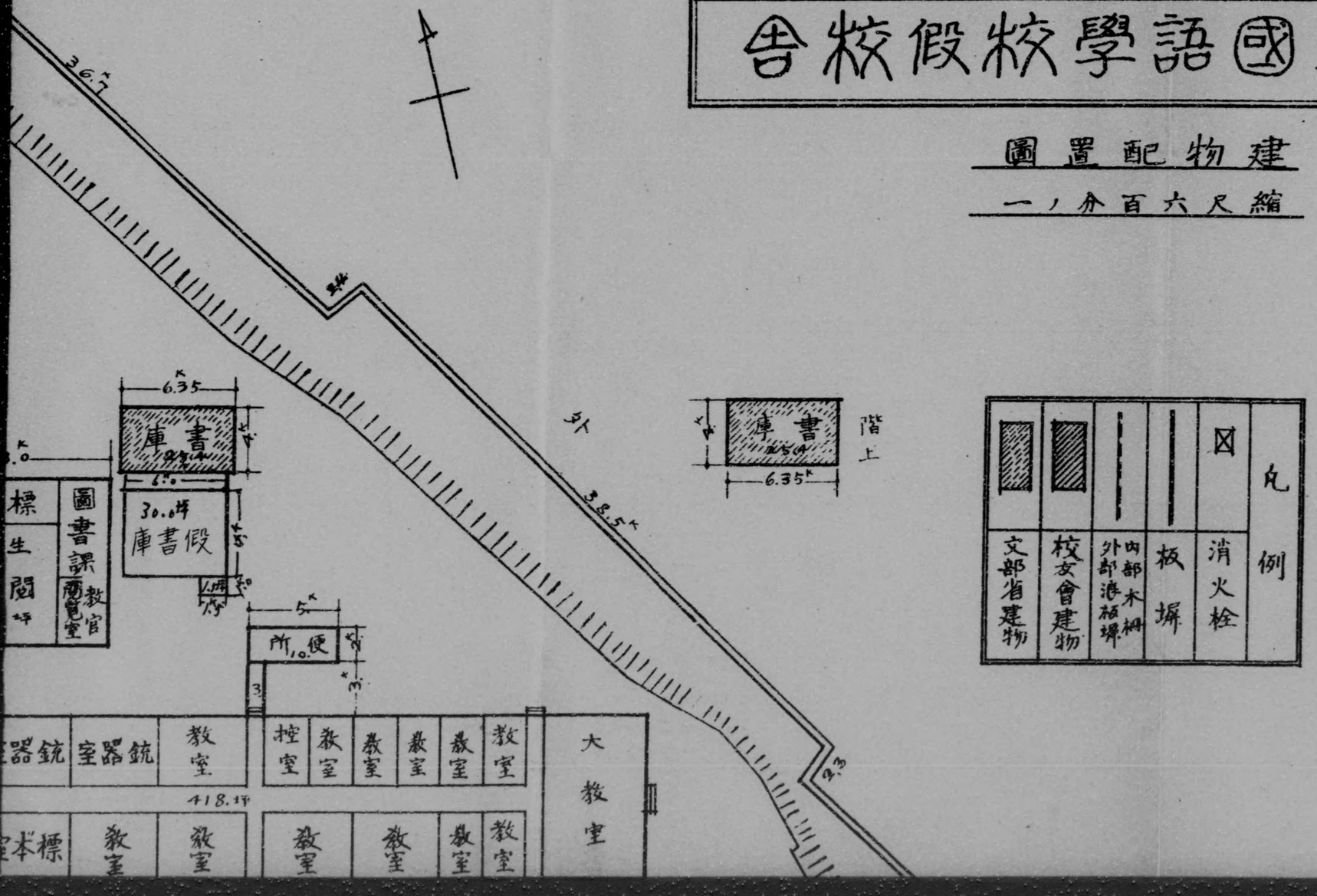


東京市麹町區竹平町一番地

東京外國語學校假校舍

建物配置圖

縮尺六百分ノ一



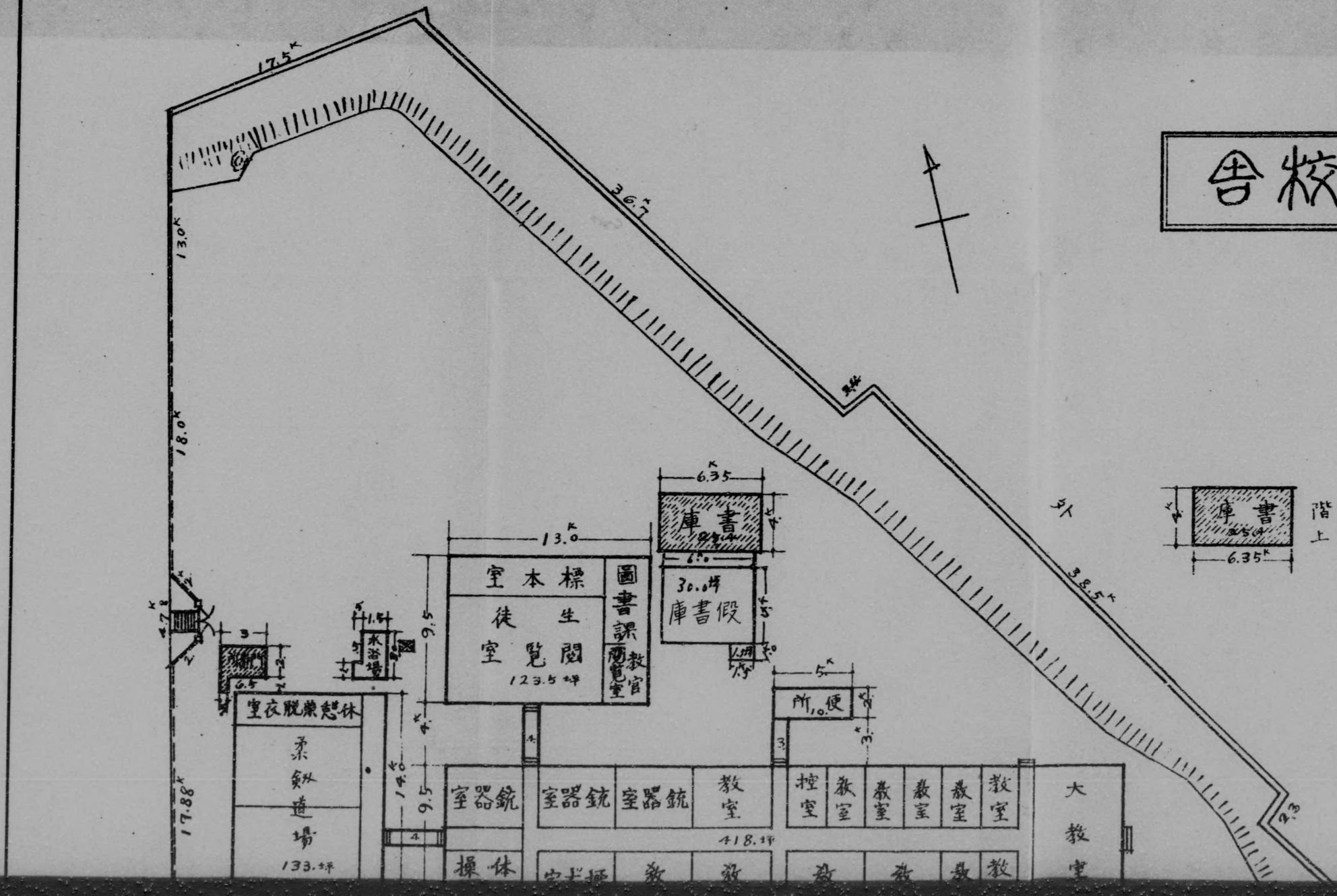
凡例	
区	消火栓
	板塀
	内部木柵 外部洋板塀
	校友會建物
	文部省建物

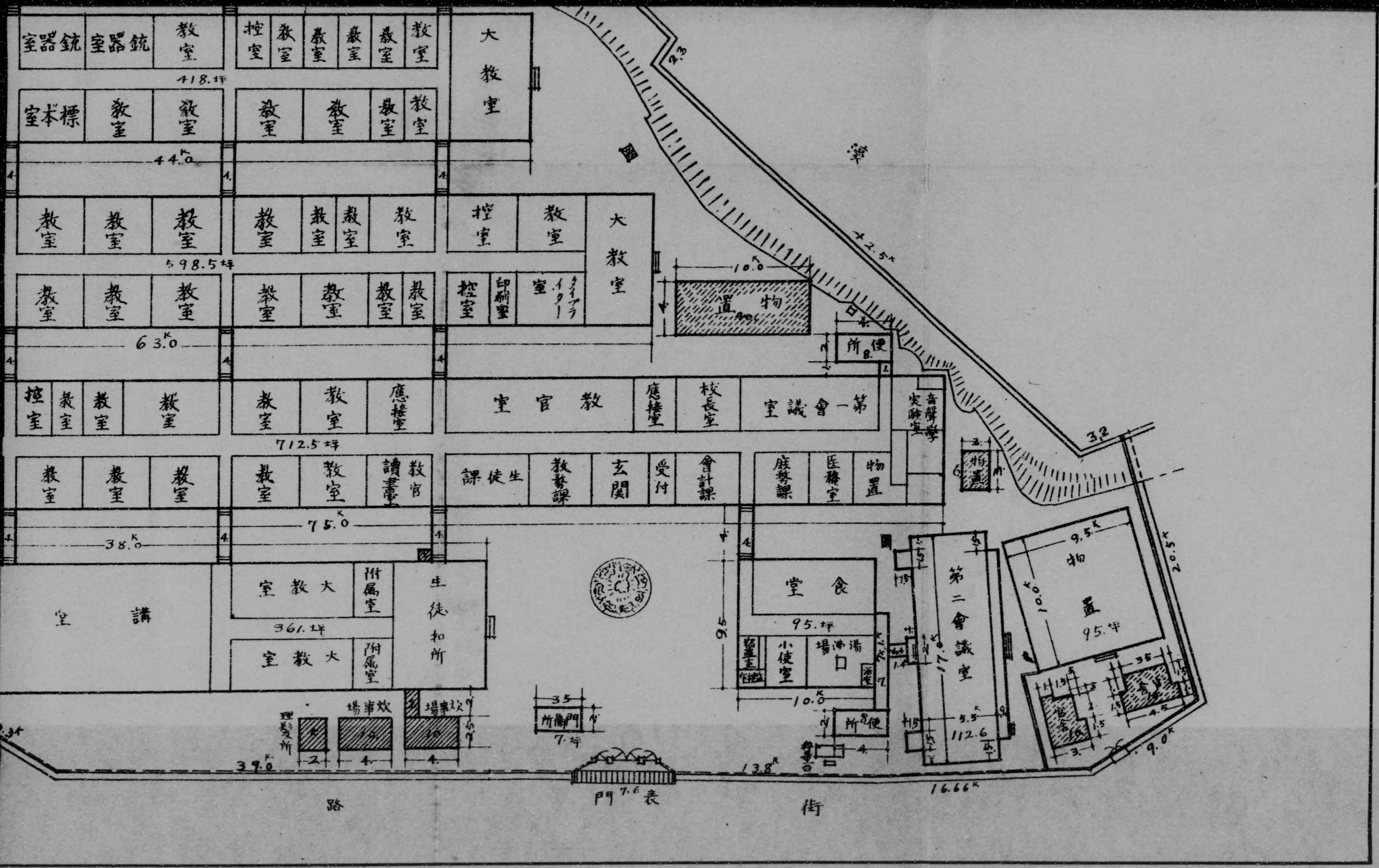
地番一町平竹區

舍校假校學訓

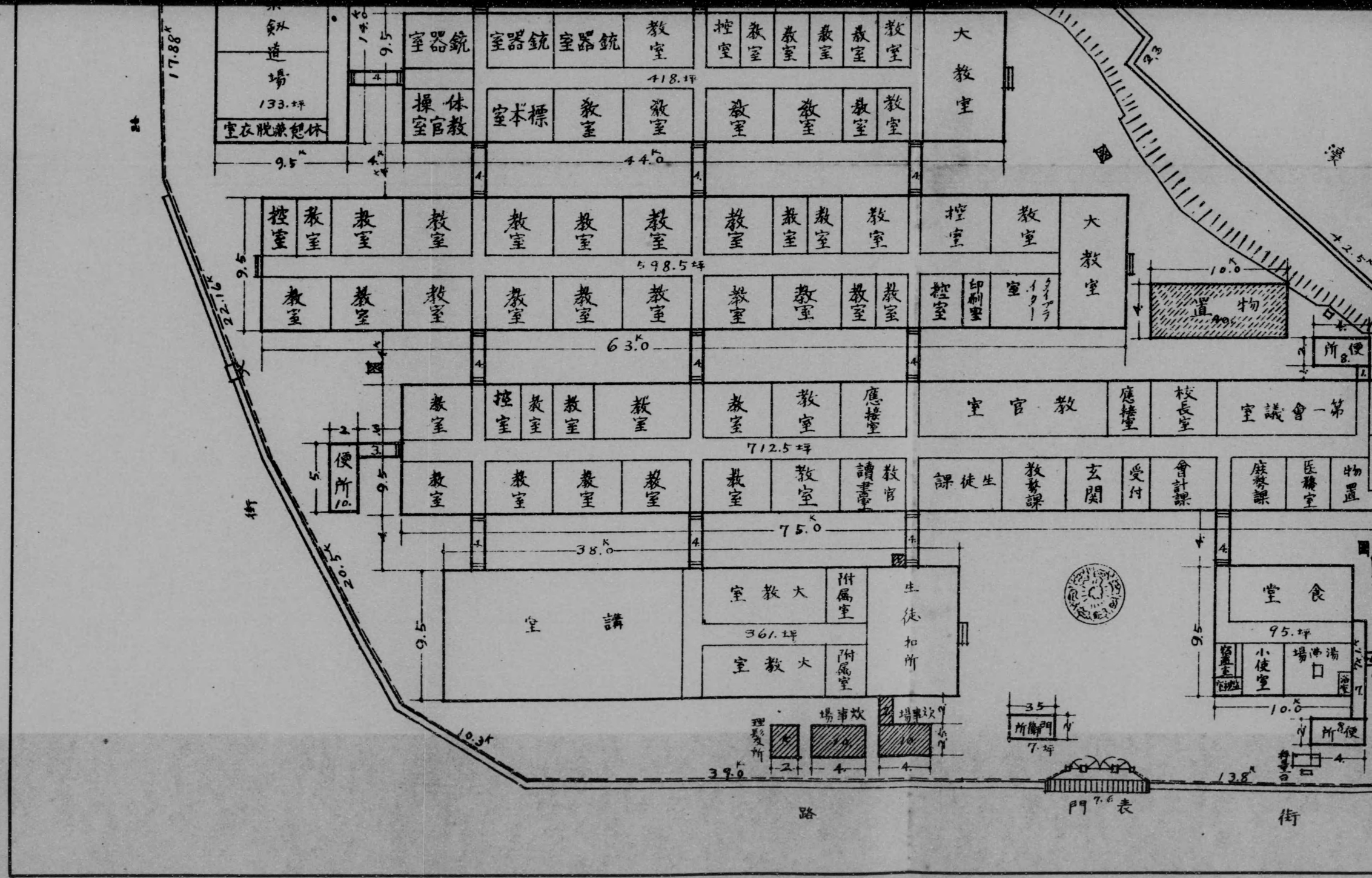
配置圖

一ノ弁百六

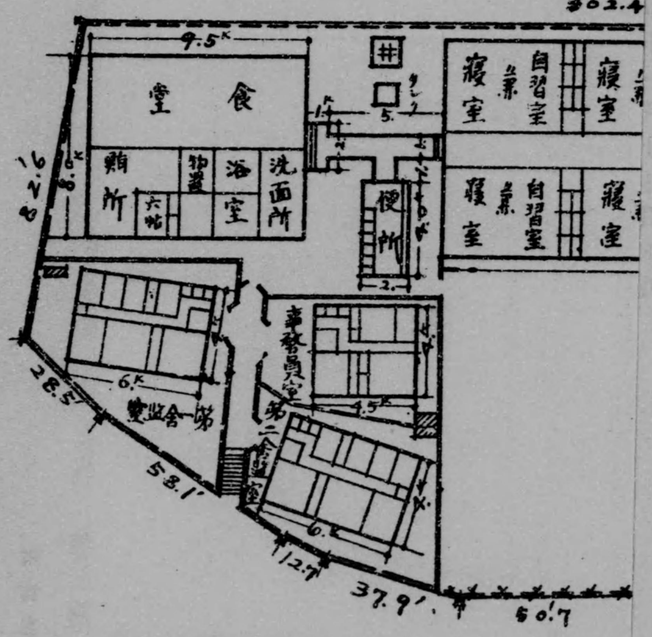




教室
控室
大教室
418.坪
標本室
44.0
598.5坪
63.0
印刷室
タイプライター室
物置
便所
教官室
應接室
校長室
第一會議室
音聲學実験室
712.5坪
生徒課
教務課
玄関
受付
會計課
庶務課
医務室
物置
75.0
38.0
講堂
大教室
附属室
生徒和所
361.坪
食堂
95.坪
小使室
湯沸場
第二會議室
112.6
理髪所
炊事場
門衛所
7.坪
39.0
13.8
16.66
表門
路
街



劍道場
133.坪
休憩兼脱衣室
銃器室
銃器室
銃器室
教室
控室
教室
教室
教室
教室
教室
大教室
418.坪
体操教官室
標本室
教室
教室
教室
教室
教室
教室
教室
44.0
控室
教室
教室
教室
教室
教室
教室
教室
教室
教室
教室
控室
教室
大教室
598.5坪
教室
教室
教室
教室
教室
教室
教室
教室
教室
教室
控室
印刷室
タイプライター室
63.0
置物
便所
教室
控室
教室
教室
教室
教室
教室
應接室
教官室
應接室
校長室
第一會議室
712.5坪
便所
教室
教室
教室
教室
教室
教室
教官讀書室
生徒課
教務課
玄関
受付
會計課
庶務課
医務室
物置
75.0
38.0
講堂
大教室
附屬室
生徒扣所
361.坪
大教室
附屬室
食堂
95.坪
小使室
湯沸場
便所
理髮所
炊事場
炊事場
門衛所
7.坪
39.0
13.8
表門
路
街



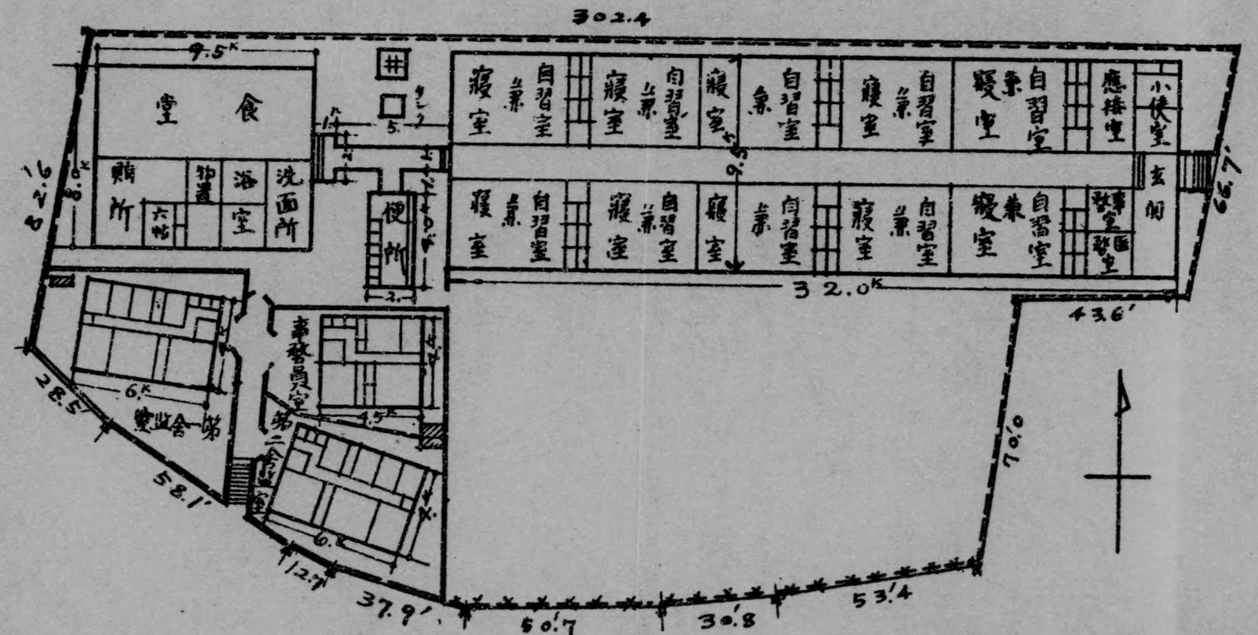
302.4
9.5
食堂
賄所
物置
浴室
洗面所
六帖
便所
自習室
寢室
寢室
自習室
寢室
寢室
事務員室
第二舍監室
第一舍監室
6.
4.5
6.
82.6
8.0
28.5
58.1
12.7
37.9
50.7

東京外國語學校假寄宿舍日新學寮

縮尺六百分之一

敷地總面積　千參拾四坪〇合七勺

建物總坪數　四百六拾貳坪



凡例	
木柵	
目隱板塀	
板塀	
鉄條網	

昭和八年十一月十七日印刷
昭和八年十一月二十日發行

東京市麹町區竹平町一番地
東京外國語學校
電話丸ノ内(23)一六番 一七番 三二番

東京市芝區田村町三丁目七番地一
印刷者 小林繁次郎

東京市芝區田村町三丁目七番地一
印刷所 小林印刷所
電話芝八四三番

293.5
I